

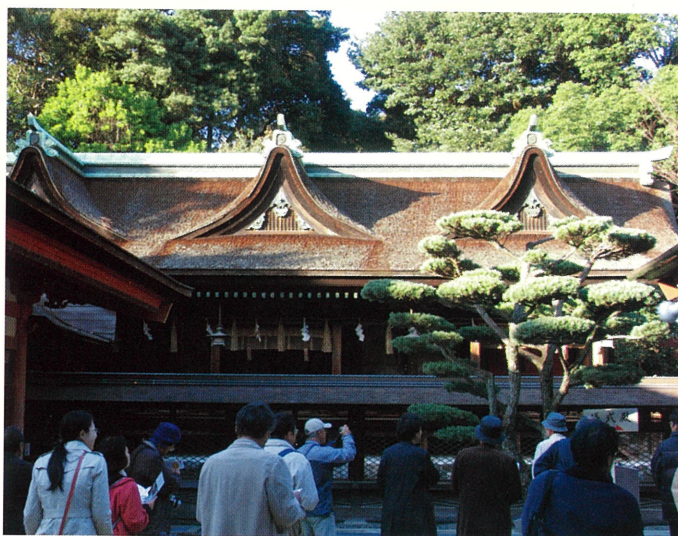
支部だより
三原支部

下関の古建築の見学会

事業委員長 平畑 隆浩

12月1・2日、三原市歴史的建造物調査研究会の皆さんと、功山寺の日本最古の禅宗仏殿(国宝)を皮切りに、住吉神社本殿(国宝)、拝殿(重要文化財)、旧下関英国領事館、旧秋田商会、下関市庁舎第一別館、山口銀行別館など、歴史的にとっても貴重な建造物を、広島大学の三浦先生の説明で見学しました。

先生の説明は、寺社建築の三手先の組物の尾垂木、手挟、大瓶束、裳階など、それぞれの材の名前はもちろんのこと、建造物の由来や、管理している人でさえも知らないような秘話にも及び、とても貴重な勉強になりました(さすが人気の先生です)。百聞は一見にしかず一現地での学習は、本や教科書では得られないものがあります。例えば寺社建築の境内に立つと、自然と凛とした空気に包まれます。また、その土地の風景や時代背景を知らず知らずに感じるすることができます。こうした感覚は、手間を惜しむべきではないと感じました。



三浦先生から教わったこと。まずは歴史的建造物を通して、そこにその建物が存在するということは、例えるなら縦軸に時の流れを、横軸にその時代に生きていた人の思い(時の権力者であったり、どんな衆であったり、宗教的にはその思想を伝える人とそれを支える人など)と時代背景、そして外国との文化の交流から生まれた新しい試みなどが織り成した結果として形を成しているのです。そしてもう1つ、それを勉強することは、まるでパズルをひも解いていく楽しみがあるということでした。

また、下関市文化財保護課の福田課長と高月主事さんには、休日にもかかわらず案内をしていただき、おかげで普段は非公開の、旧秋田商会の日本最古の屋上緑化を拝見することができました。お心遣いに皆で感謝しました。夏の姫路城と円教寺の研修と同様に、知的好奇心が

大いに満足する研修になりました(と、思っております)。次回もこうした研修ができればいいなと思っています。まずい文章力ながら、見学会のレポートでした。



【その他『へえー』と感心した中からいくつかを番外編にしました】

番外レポート①：夜はいろんな過ごし方をされたと思いますが、私は部屋に集まって、ワンカップを飲みながらの雑談を通して交流できたことが有意義でした(実は飲み過ぎて、良く覚えてませんが…)。

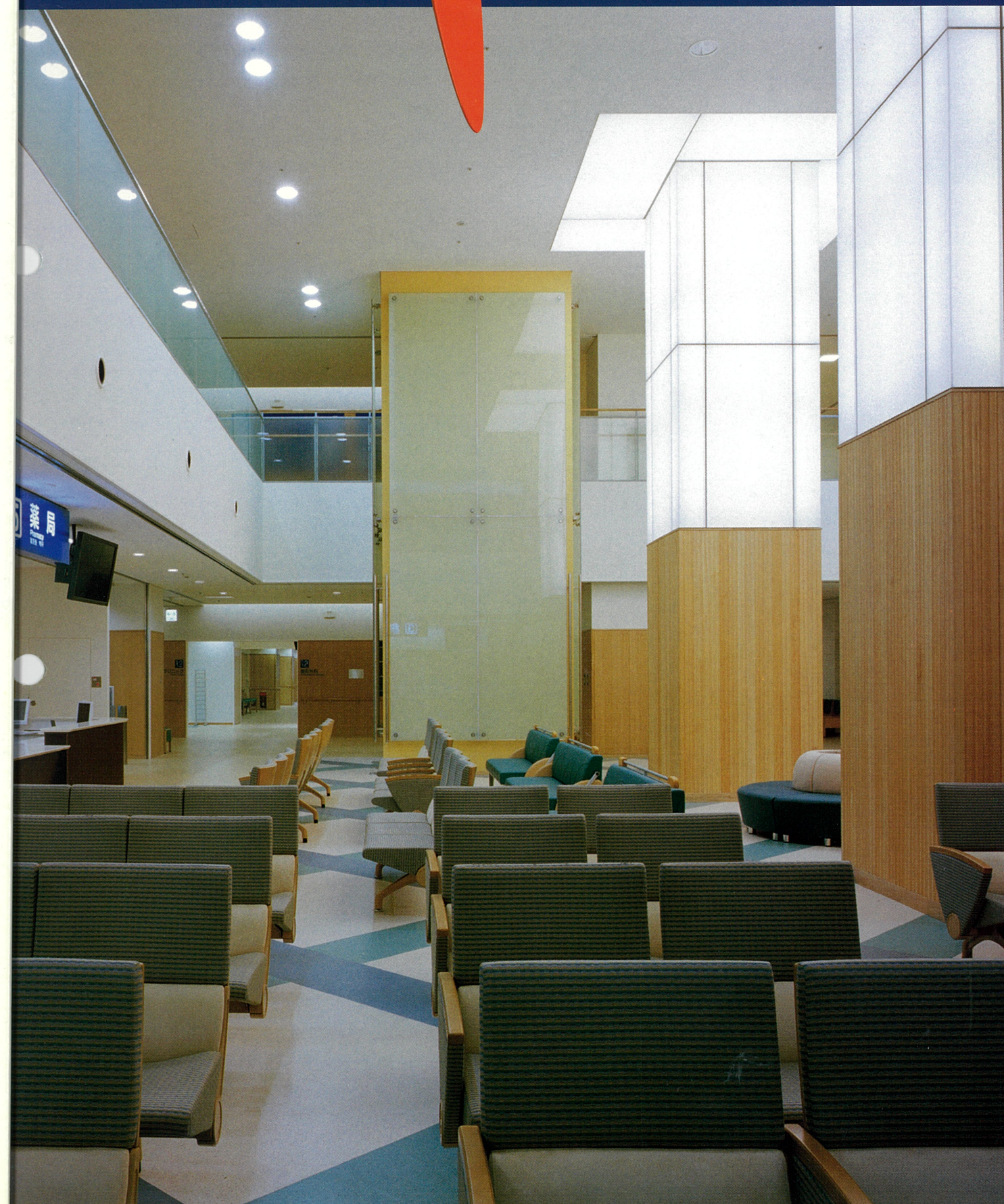
番外レポート②：功山寺の円柱は芯材持ちで割れがあり、檜かなとも思いながら、一緒にいた人と「桧に近いが、木目が違う」と雑談していたら、三浦先生が調査した人から聞いた話として、実は大榎の樹種であろうと推定されていると聞き、本当に何でもよく知ってらっしゃって『へえー』と驚きました。

番外レポート③：西日本で最古の現存RC造である旧秋田商会の1階床に、ガラスの部分がありました。これは地下室のトップライトと聞き、『へえー』と納得。そして大正4年に建てられた時、火事による焼失対策のために隣地に面してファイヤーウォールを設け、窓からの炎侵入対策に鉄の防火戸を外部に設けてありました。実際に過去の大きな火災にもその効果を発揮して、こうして現存。当時の設計者の工夫には、建築に携わる者としてその心構えに『へえー』と感心しました。

番外レポート④：旧通信下関郵便局電話課庁舎は、分離派建築の数少ない現存例です。分離派建築会とは、東京帝大建築学科の山田守・堀口捨巳などが『我々は起つ、過去建築圏より分離し、総ての建築をして真に意義あらしむる新建築圏を創造せんがために』と結成されたとありました(思い入れの強さを感じました)。

建築士

IROSHIMA





広島市立広島市民病院

●設 計／久米・村田相互設計業務共同企業体

●施 工／清水・飛鳥・砂原・鴻治

建設工事共同企業体

●所在地／広島市中区基町

●構 造／SRC造一部S造

●規 模／東棟：SRC造 31,966.51㎡

地下1階・地上11階

プロムナード棟：SRC／S造

2,538.74㎡ 地下1階・地上4階

立体駐車場：S造 3,585.21㎡

地上4階

●最終延床面積／76,450.81㎡ (駐車場含む)

●竣 工／2008年3月

広島市民病院は広島市の総合基幹病院として急性期医療を中心とした高度医療の提供を行っています。しかしながら、病棟の老朽化、外来診療部門の狭隘化から、新しい時代における医療需要への対応が困難となり、1998年度に整備基本計画を策定。2000年度から基本設計に着手してきました。

今回の施設整備は、狭隘な敷地条件の中で、工事期間中も医療行為を継続しながら病棟の建て替え及び外来診療部門の移転など、2008年3月の竣工を目指して増改築工事を進めています。2006年3月には東棟(1～4階に外来診療部、5～9階に病棟)が完成し、2007年3月には西病棟他(1～4階外来・日帰りOP・管理部門、5～9階病棟)の改修工事が完了しています。現在2008年2月にプロムナード棟(既存棟と東棟を連結する3層吹き抜け空間)の完成を目指し工事を進めています。

これら一連の増改築整備により、広島市の総合基幹病院として急性期医療を中心とした高度医療の提供、患者アメニティの向上など、市民に信頼され満足される病院となるものと確信しています。

2008年 年頭のご挨拶 3

平成20年度 会長及び監事の選出について..... 6

広島県内の古民家調査—No.17 8

ひろしま住まいづくり支援ネットワーク事業

安心・安全な住まいづくり..... 10

木造住宅耐震改修セミナー..... 10

ひろしまハウスがカンボジアから日本を笑う

基調講演「建築家・石山修武 ひろしまハウスを語る」の報告 11

作品紹介 21

呉高専テクノセミナー開催について..... 21

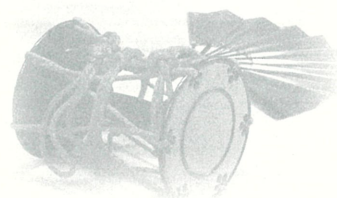
模型創り体験 “ドリーム・ハウスを創ってみませんか”..... 33

賛助会員紹介..... 34

第24回呉建築セミナーを終えて 36

ふたつの公共建築物を見学して／行事予定 37

下関の古建築の見学会..... 38



あなたの作品で表紙を飾ってみませんか？

随時、表紙用の写真を募集しています。写真(プリント、ポジ、データ)2～3点を設計概要、設計趣旨(400字程度)と一緒に送ってください。会員の皆様からのご応募をお待ちしています。



社団法人 広島県建築士会

〒730-0052 広島市中区千田町3-7-47 広島県情報プラザ5F

TEL (082) 244-6830(代) FAX (082) 244-3840

mail : info@k-hiroshima.or.jp

URL : http://www.k-hiroshima.or.jp/

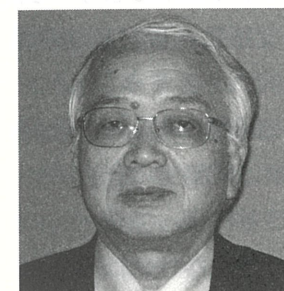
広報委員会

委員長 高田輝雄

青山裕志 梅林 悟 北台幸祐 続木英二 土井節夫

中村元信 濱井義樹 原 隆之 松岡 武

年頭のご挨拶



広島県建築士会の皆様、新年あけましておめでとうございます。平素は建築士会の活動にご協力いただきありがとうございます。本年が皆様に

うございます。本年が皆様に
って素晴らしい年でありますように心から願うものです。

さて、耐震偽装問題が表面化して2年が経過しました。その間、建築基準法、建築士法、住宅瑕疵担保責任履行法など、我々建築の世界に身を置くものにとって大変大きな変革が行われてきましたが、建築にかかわるすべての者がその荒波に翻弄され続けております。

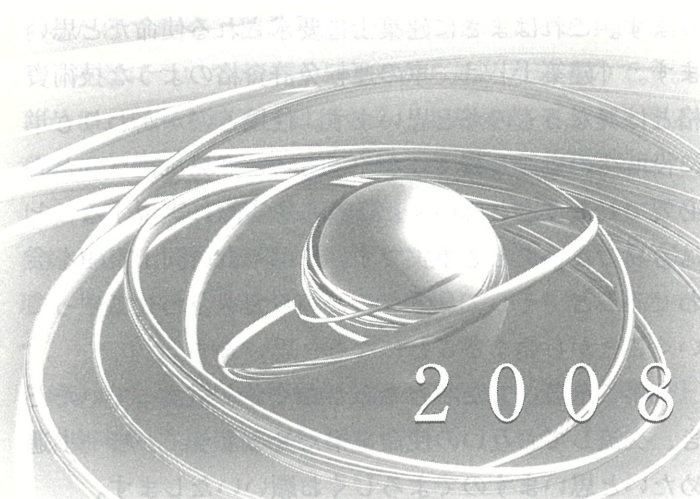
耐震偽装問題は決して「青天の霹靂」ではありません。「細菌の中の疾病」と言ってもいいかもしれません。油断しているといつでも起こりうるということです。物づくりの偽装は、建築の世界だけではなく、薬、食品、乗り物など命にかかわるものをはじめとして、あらゆる場面に及んでいます。決して建築の世界に身を置く者の責任転嫁を意図するものではありませんが、偽装を生み出す心の乱れは、建築の世界のみでなく、忍び寄る細菌のように我々の周りを浸食しつつあります。「真実かどうか」と問えば、おぼつかないものが増殖を続け、不信や悪意が今の時代にに満ちているようにさえ思われます。

しかしながら、私たちの日常はまだ多くの善意や信頼で成り立っていることも確かです。建築という重厚な実在を創り出す私たち建築士の日常の仕事もその多くは信頼や善意に支えられていますし、私たちは、その中に生きている意味を感じて暮らしているのです。

恐ろしいことでもあり、憂うべきことでもあるのは、不信や悪意を封じ込んで消し去ることを目的に繰り返される拙速な対症療法としての対応策は、それが不信と悪意を前提にする性悪説的なが故に、信頼と善意をも無視したり消し去ったりしてしまうという大衆社会的現実です。アメリカで飛行機に乗るには長い時間をかけて靴まで脱いで検査を受けますが、そこにあるのはテロリストしかいない風景です。

新しい年を迎えて、建築士法改定の中で建築士会はまさに多事多難な時を迎えますが、皆様と共に信頼や善意、そしてそれらを前提にする連帯を大切に活動したいと願っています。

どうか今年もよろしくお願いします。





広島支部 支部長 宮本 健司

新年あけましておめでとうございます。会員の皆様におかれましてはご家族お揃いで新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年は選挙の年で、地方議会（大変お世話になりました）、参議院議員選挙で自民党が惨敗という歴史的結果が残りました。また、石油価格の高騰や食品の賞味期限偽装問題など、国民生活に与えた「影響」は大いなるものがありました。とりわけ我々建築士にとって、構造計算の偽装事件に端を発した建築基準法の改正、建築確認申請の複雑化、それに伴う建築着工件数の大幅な減少と、昨年は波乱に富んだ1年であったと思います。今年上半期は建設業界にとって苦しい時になると思いますが 根強い需要があり、下半期は明るさが見えてくると信じています。

建築士と建設関連体と連携を取りながら、建築基準法に明記されている建築士のモラルの向上等々の諸問題に一致団結し、クライアントの信頼回復と、建築士の地位の確保に努めていく年になるのではないかと感じます。

そのためには、講習会をはじめとする諸事業に御協力いただくことが不可欠だと思っています。

今年が会員皆様にとって良い1年でありますよう御祈念申し上げ、新年の御挨拶とさせていただきます。



呉地区支部 支部長 福原 安洋

新年おめでとうございます。昨年度は、建築士制度について改めて考える年でありました。今年こそ建築士の地位をより向上させたいものです。

さて、広島県建築士会の綱領の2つ目に、「われら建築士は社会の発展のため、最新の指導者たるべし」とあります。これはまさに建築士に要求される使命だと思っています。「建築士」は、車の運転免許資格のような技術資格とは異なるものだと思います。住民とのかかわりも単に役所への橋渡し役ではなく、もっと意見を言うことも必要でしょう。とはいえ、これらを実際に実現することは容易でないことも事実です。やはり会員同士が顔を会わせること、そして身近なことから力を合わせてやっていくことから始まることになると思います。

今年こそ若い方たちももっとたくさん集まっていたで、交流してお互いの使命を果たせるよう、一步一步進めたいと思いますのでよろしくお願いいたします。



東広島支部 支部長 梶津 圭右

参加する建築士へ

あけましておめでとうございます。昨年発生した建築士にかかわる重大な問題は、私たちに大きな衝撃をもたらし、本来の社会的貢献が薄らいでいくような気がします。広島県土の中央に位置する私たちの支部は、現在165名の会員が活動をしています。

東広島支部も36名の専攻建築士が誕生しました。建築士の情報公開、社会へ向けての貢献、建築士の仕事、その役割が、また責任を明確にすることによって社会への理解を求め、建築士の信頼を高めていかなければなりません。

昨年10月の「酒祭り」に、青年女性委員会が主体になって参加をしました。大変好評で、今の子どもたちが、親たちが何を求めているかを見たような気がします。

昨年は、社会活動委員会を発足いたしました。各委員会でいろいろな行事を企画しています。

この難局を乗り越えるためには、まずは建築士会へ参加してください。そして活力のある支部を創ろうではありませんか。



三原支部 支部長 正尺 文夫

謹んで新年のお慶びを申し上げます。干支もトップバッターの子年になり、平成20年、西暦2008年（ラッキー7から末広の8）と、希望に満ちた新春です。

昨年は本部総会を三原支部が担当し、総会、記念講義に多数の参加をいただき、盛会裏に開催できました。改めて会員の皆様、講師の先生に心よりお礼を申し上げます。

また12月には三原市の協力で、『三原市芸術文化センター（ポポロ）』の完成見学会を開催。大学生をはじめ多くの皆様の参加をいただき、機能のある文化施設を見学、そして体験していただいたことも良かったと思っています。

今年も厳しい年でしょうが、ゴルフプレイのトラブルでイチかバチかの1発ではなく、フェアウェイに戻す『堅実なプレイ』はどうでしょうか。



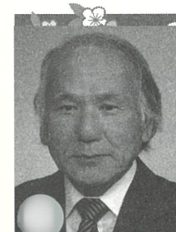
尾道支部 支部長 元廣 清志

平成20年の新しい年をお健やかに迎えになられたことと存じ、心よりお慶び申し上げます。新年を迎えると、良い年でありますようにと願うことから、今年こそは平穏な年になりますようにと願うような感じがします。

昨年は建築に関係します法の改正もあり、何かと気ぜわしい年でありました。今年は新しい方向にも慣れて、順調な年であってほしいと願います。ますます複雑な社会状況になることは間違いないので、私たちも日々の活動や努力を怠ることなく前進する必要があります。

建築関係を業となす私たちは、特にその必要性に迫られています。その中で私たちの進むべき道しるべは、この建築士会です。建築士会が先頭に立って、そのあり様を見つけ出す必要があるように思えます。それは決して易しいこととは思えませんが、少しずつ皆の力を合わせて大きな力と成し、この難局を乗り越えたいものです。その思いは少しずつ芽生え、支部の中でも小さな活動から和が広がりつつあります。それぞれの立場は違っても、協力し合い、自分のことだけでなく周りを見渡して関心を持つ、そんなことから始めていったら良いと思います。

今年1年が皆様にとって本当に良い年となるようお祈りし、ご協力を心からお願いし、挨拶とします。



県北支部 支部長 磯井 和雄

新年明けましておめでとうございます。昨年は、支部の事業活動にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございました。おかげさまで、酒蔵跡の見学会や蔵建物の実態調査、支部ボウリング大会、士会ゴルフ大会のお世話やソフトボール大会への参加（優勝・三連覇）、住宅相談会、公共建物の見学会（参加者15名）、木造住宅耐震改修セミナー（参加者75名）、専攻建築士登録申請の予備審査（申請者10名）等の諸事業を実施することができました。会員の皆様のご協力と、県や市関係当局のご指導ご尽力のたまものと深く感謝申し上げます。

昨年の6月、耐震強度偽装事件を教訓に改正建築基準法が施行されて、申請書類修正は再申請となるなど、建築確認の厳格審査が行われていました。が、軽微な補正や認定書の写し等について、緩和されることになりました。耐震偽装や耐火性能偽装事件が相次いだ年でしたが、本年こそ社会に対する建築士の信頼回復の年となることを祈念し、新年のご挨拶といたします。



福山支部 支部長 河相 喜久男

年頭にあたり、謹んで新年のお慶びを申し上げます。今年こそはと、希望を胸に新年をお迎えのことと思います。構造計算偽装問題から建築士法、基準法が大きく改正され、その流れに置いていかれることなく、常に前向きに建築の専門家として学び続けなければなりません。

私たち建築士は、地域社会にどう貢献し、かかわっていくか知恵を出し合い、活動を進めています。私たち建築士を取り巻く環境は、広く重大な責任を伴っています。誰もが自然環境の中に生かされていることを再認するとともに、建築に携わる私たちは、その地域の暮らしを見直しながら、専門家と生活する者、双方の視点から提案や提言ができるはずで、その地域との共生を考える中で、異業種の専門家との話し合いや協働を図り、あらゆる人々が「安全で安心」な暮らしのできる社会を目指す努力をしたいものです。

「つくり～守り～つなぐ…「何でもありの住まいづくり」から「地に足をつけた住まいづくり」を、今日から見直しましょう。安全で快適なものにしたいと、改修する人の多くが思います。その依頼に私たちがどう応えていくか！その建物の良さを残し、時代に即した機能を持ち、長く使っていける、環境に優しい物づくりこそ、その場所にふさわしく残っていけると考えます。

私たち支部も昨年9月には、まちづくり学習として「歴史のみなとまち鞆をあるく」（本部まちづくり委員会活動）を開催し、広島大学の三浦教授に講演をいただきました。90名に及ぶ会員（各支部からも参加）が、鞆の街並みと建物（民家）等を見学しました。

景観法が制定され、2年が経過。景観の形成に大きな影響を与える建築士にとっては、大きな課題です。多くの仲間が地域貢献として、この活動に住民を巻き込んで真剣に取り組まなければなりません。行政が計画、執行するだけでなく、私たち建築士が地域の人々と共に景観や、風景について考えるところから始めたいものです。しかし、私たち建築士は街並み、景観を整えようとする意識が、日ごろの仕事に追われて薄かったのではないのでしょうか。今から私たちは自信を持って、建築士として、会員として、都市計画に参画し、建築士の集団として「地域と共生する住環境づくり」に貢献していきたいものです。

終わりに、会員の皆様の発展とご活躍をお祈り申し上げます、新年のご挨拶といたします。

平成20年度 会長及び監事の選出について

選挙管理委員会 委員長 金井 三郎

当会の選挙基準に基づき平成20年度の会長及び監事の候補者を公募し、平成19年11月30日で締め切りました。12月4日の選挙管理委員会におきまして、立候補届出提出書類を審査いたしました結果、下記の候補者が決定いたしました。

会長候補 氏 名 錦織亮雄(にしきおりあきお)
性 別 男
会員番号 21147
勤 務 先 株式会社新広島設計
代表取締役会長
入 会 年 昭和49年
生年月日 昭和12年11月3日

監事候補 氏 名 小西秀明(こにしひであき)
性 別 男
会員番号 20607
勤 務 先 財団法人建築技術教育
普及センター 事務局長
入 会 年 昭和56年
生年月日 昭和21年2月27日

監事候補 氏 名 知野吉春(ちのよしはる)
性 別 男
会員番号 20934
勤 務 先 株式会社錦建設
建築技術管理部 部長
入 会 年 昭和49年
生年月日 昭和21年5月21日

以上のように、会長及び監事、共に定員以上の立候補がなく、無投票当選となりますので、平成20年度の会長及び監事は下記の者に決定いたしましたので、ここにご報告申し上げます。併せて、推薦者をご紹介します。

社団法人 広島県建築士会

会 長 錦 織 亮 雄
監 事 小 西 秀 明
監 事 知 野 吉 春

会長候補推薦者

栗岡 勇次 氏
広島支部所属、現副会長、
(日本住宅パネル工業協同組合中四国支所)
公益法人制度改革及び建築士法改正に伴う中央登録指定機関(一級建築士の登録業務)として活動するために、定款、規則等の再度の改正に迫られる重要な時期であり、会長2期4年の実績及び実行力のある錦織氏を推薦します。

宮本 健司 氏
広島支部所属、現広島支部長
(株式会社ミヤモト建築設計事務所)
我々建築士、又建築士会にとって、建築士法の改正、確認申請の問題等々、現在曲がり角にきていると考えます。強力なリーダーシップを発揮していただけるのは、錦織氏が最適です。

河相 喜久男 氏
福山支部所属、現福山支部長
(河相建設株式会社)
広島県建築士会の組織改革に勇気を持って取り組み、大きな成果を挙げられると共に、意欲的な行動に対し、錦織氏を推薦申し上げます。

正尺 文夫 氏
三原支部所属、現三原支部長
(正尺建築設計事務所)
長年の役員経歴と信頼に値する人柄の錦織氏を推薦します。

元廣 清志 氏
尾道支部所属、現尾道支部長
(有限会社元廣建築設計事務所)
経験が豊富であり、建築士会の今日的課題を解決し、会員のためにリーダーシップを発揮でき、今後の建築士会の方向性を担うには、錦織氏が最適任者ですので推薦します。

監事推薦者

・小西 秀明 氏推薦者

横田 昇三 氏
広島支部所属、現相談役
(株式会社広島建築住宅センター)

森本 悦喜 氏
東広島支部所属
(株式会社広島建築住宅センター)

財満 孝之 氏
広島支部所属、現監事
(自営)

・知野 吉春 氏推薦者

宮本 健司 氏
広島支部所属、現広島支部長
(株式会社ミヤモト建築設計事務所)

松浦 通昭 氏
広島支部所属
(株式会社錦建設)

迫谷 政則 氏
広島支部所属
(株式会社錦建設)

会長立候補に当たっての所信

錦 織 亮 雄

耐震偽装問題に端を発した建築関連法制の改訂は、思いの外大きな混乱を引き起こしております。建築基準法に続いて、これから新たな建築士法が施行の段階を迎えます。この改訂は建築士会にも大きな変革を強いることとなります。

私は、これまで2期にわたって広島県建築士会の会長として、組織の改革、事務局の充実、予算編成の改革、支部活動充実へのシフトなど、主として内部の改革を進めてまいりましたが、それすらまだ道半ばであります。その上に、このたびの法改正に伴う外的要因による改革に直面するに当たり、これらに的確に対応し建築士会の社会的基盤を確立する必要を痛感し、多くの方のご支援の下、次期会長に立候補することといたしました。

法的社会的制度の中での的確な役割の達成、建築士の社会的活動の推進、会勢と組織力の拡充などにより、建築士の社会的地位の確立を最終目的に活動したいと考えます。

よろしくご支援のほどお願い申し上げます。

「竹尾家住宅」

広島支部 カトウ建築設計 加藤 早苗
http://www.geocities.jp/kominka_kenkyu/

建築用途 酒造業、農家
所在地 東広島市志和町志和掘 3312
構造形式 木造平屋建片入母屋造 茅葺
建築年代 江戸時代後期《推定》

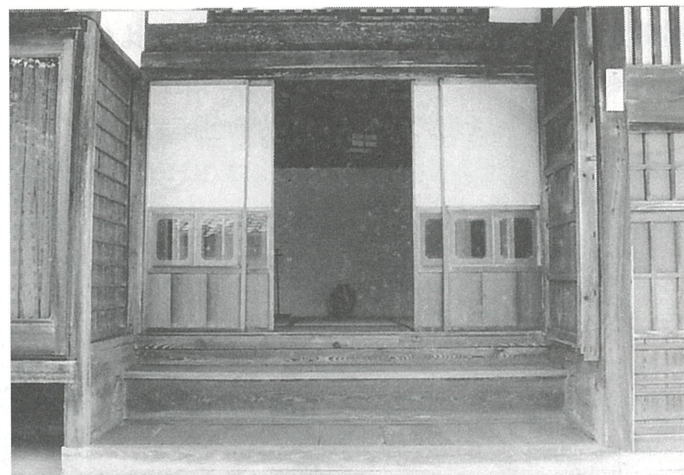
山と川に囲まれた田園風景が広がり、東西に貫く山陽道を南にして、近年急速に開発の進む東広島市志和町志和掘地区に竹尾家はある。

竹尾家の初代は、江戸時代後期の1800年ごろ分家し、酒造業と農業を営み、屋号を「志賀屋」と称し、使用人を雇用し栄えた。現在も酒造業を連綿と続け、「千代乃春」の銘酒で有名。現在の当主は6代目にあたる。

建物配置は広大な屋敷の南側中央に主屋が南面して建ち、東側と北側を大規模な酒造蔵が屋敷の大半を占め、主屋の北側に衣装蔵、南側に離れ座敷、正門、土蔵が連なり外郭を構成している。これらの建築群は、初代から数世代に渡って随時建築されたものと推定され、竹尾家



主屋南東面外観



式台付玄関

の家勢が伺える。

主屋の急勾配の茅葺屋根は、棟高の合掌造りを連想させ、迫力に圧倒される。間取りは前面の大戸口を入ると土間、その奥の北側を釜屋とし、前列下手から玄関ノ間、次ノ間、上ノ間とし、後列下手から台所、納戸、中納戸、奥納戸と配置している。上ノ間、次ノ間、奥納戸、中納戸は薄鴨居に長押を回し棹縁天井とする。玄関ノ間、納戸は差鴨居で固め根太天井とする。

上ノ間の座敷飾りは、床ノ間と付書院を並べ仏壇を後補としている。上ノ便所は賓客用と家族用の前列後列に沿って壁仕切で独立させ開放廊下で主屋とつなぎ賓客用に風呂をしつらえる。

竹尾家は江戸時代末期、旧志和掘村の庄屋格を務め、民家では庄屋格以上の役職に許された式台付玄関も残っている。

当家の土間、台所、納戸などに改変はあるものの近世以来の伝統的な農家形式を踏襲し、格式を重んじた造りは江戸時代後期の遺構を知る上で貴重である。

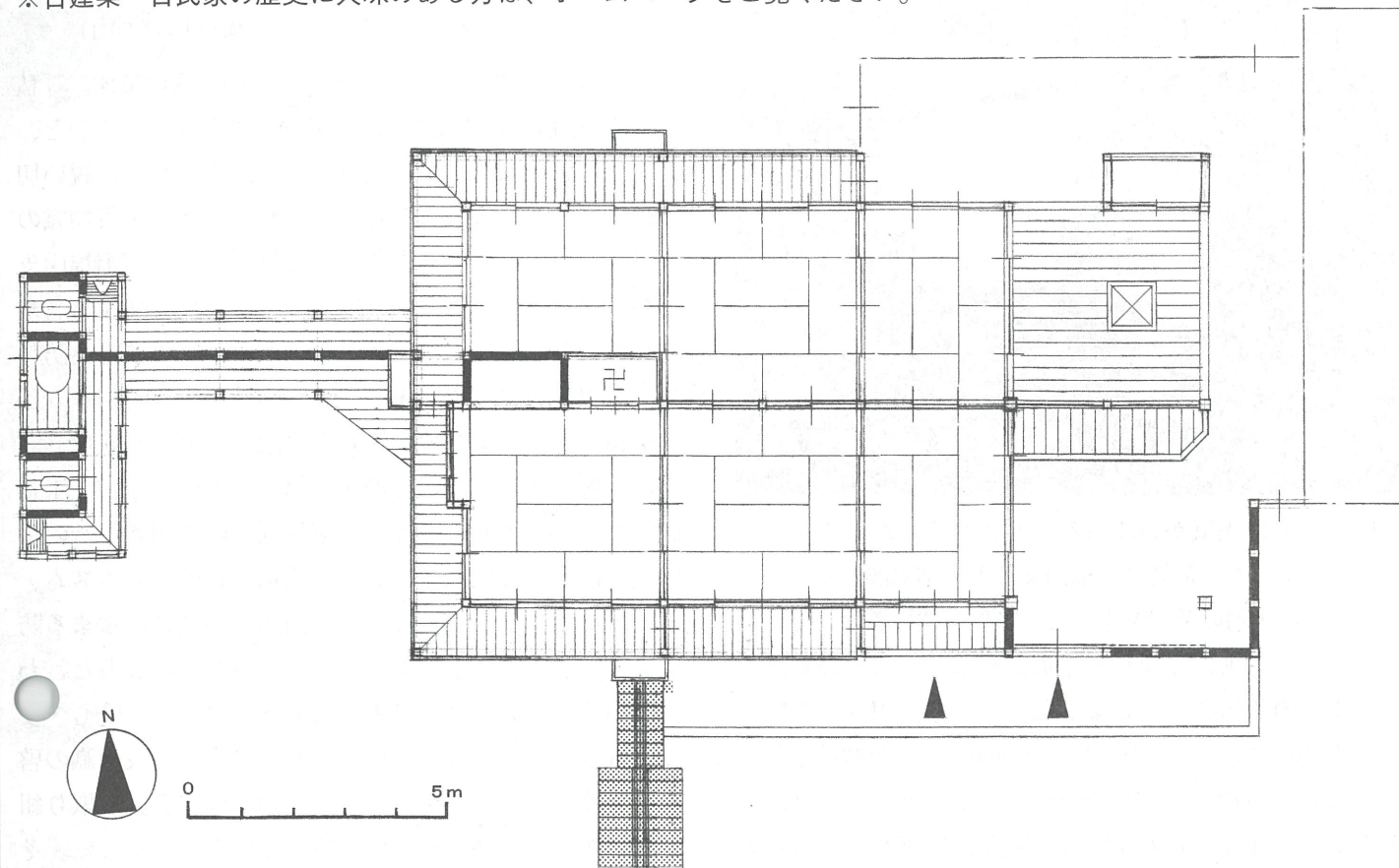


南面屋根軒裏

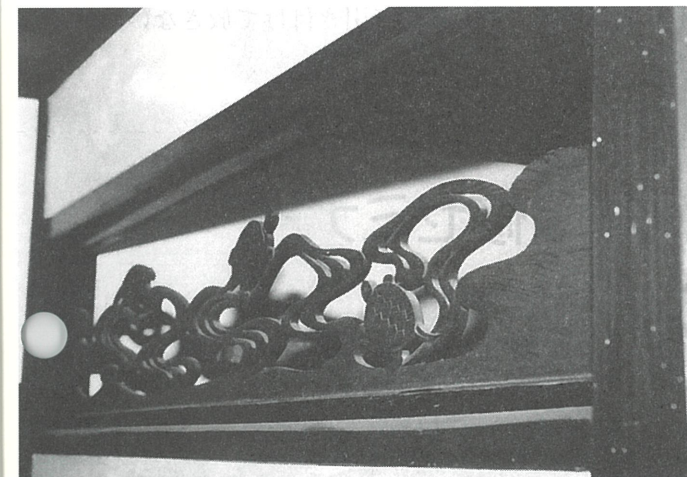


上ノ間 座敷飾り

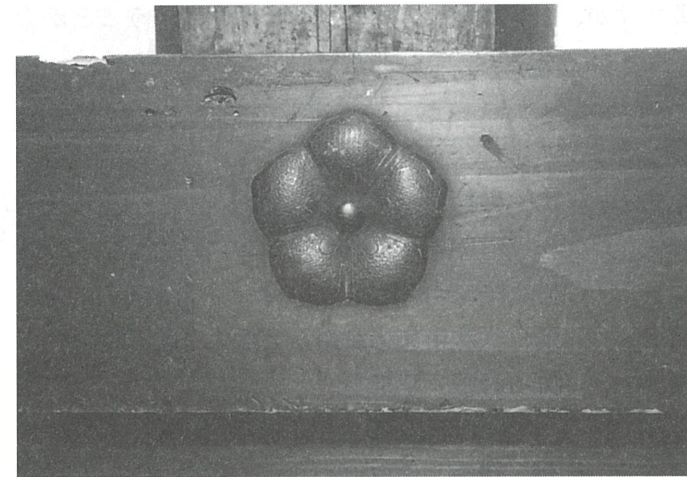
※古建築・古民家の歴史に興味のある方は、ホームページをご覧ください。



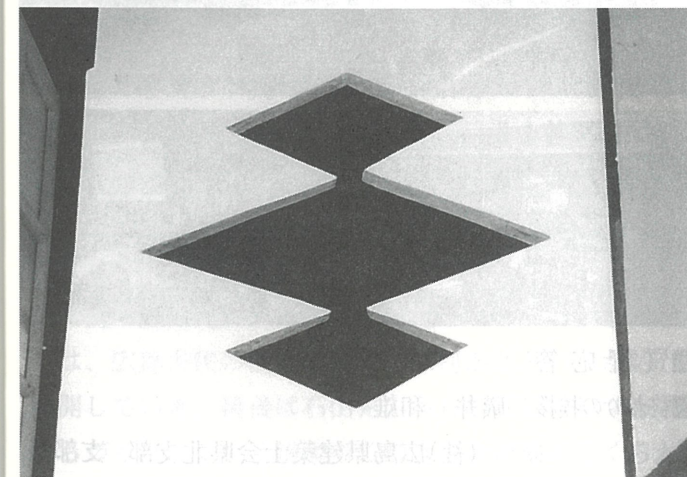
平面図



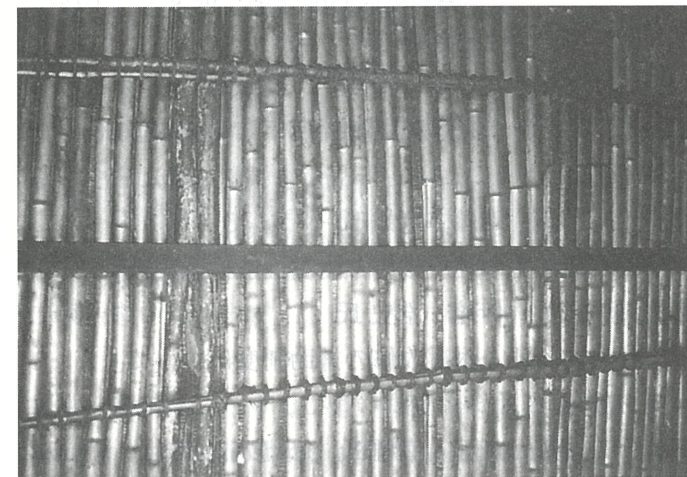
上ノ間 透彫欄間「波に亀」



次ノ間 釘隠「桔梗」



縁側 間口「松皮菱」



土間「大和天井」

支部だより
福山支部

ひろしま住まいづくり
支援ネットワーク事業

安心・安全な住まいづくり (平成19年11月20日)



広い会場に熱気があふれるほど、たくさんのご参加をいただきました。最初に、福山支部中川副支部長が冒頭、「こんなに大勢の前で話をするのは髪が抜ける思いです」とジョークを飛ばしながら、福山支部で行っている住宅無料相談の報告をいたしました。1. 住宅相談の事例、2. 紛争の主な発生原因、3. 事前防止と紛争解決手段、4. 業者間の紛争、と4段階に分けて、データ・事例などを織り交ぜながらの説明は、実際に仕事をしている者にとって非常に興味深い内容でした。最後に、「住宅の紛争を少しでも少なくするには、十分な打ち合わせも必要ですが、お客様と業者がお互いに理解し合うことが大切です」と締めくくり、非常に濃い内容でした。

後半は、名古屋大学大学院の福和教授の講演です。「私たち(建築士)は耐震化を進める資格がありますか!」と、さすがに建築耐震・防災教育の第一人者らしく、鋭い切り口で講演が始まりました。まず我々の建築防災知識のチェックをと、受講者を代表して錦織会長・河相福山支部長・県住宅室河野主任主査・司会の犬角女史の4名が福和教授にメッタ切りにされました。1 昨年の中央防災会議で福和教授の説明を聞いて、当時の小泉首相や安部官房長官が耐震補強の大切さを痛感したという話は、容易に理解できました。その後も驚き、納得の連続。1 番簡単な地震対策の1つである家具固定の大切さ、昔の平屋建て住宅から現在の高層ビル建物倒壊のメカニズム、地震時における医師・救急車・消防士の数にはじまる防災システムの微弱さ等々。そして今後必ず起こると言われている大地震による日本社会崩壊に対して、安心・安全な日本を私たちの子孫に残すためにも、防災意識の啓発と建物の耐震化、防災システムの整備に真剣に取り組んでいかなければならないと教えていただきました。そして最後は、「強なくて用なし、用なくて美なし、強を忘れない」と締めくくられました。2時間半の講演は、140名の受講者を最後まで引き付けて放さないお話でした。

支部だより
県北支部

ひろしま住まいづくり
支援ネットワーク事業

木造住宅耐震改修セミナー

- 日 時 平成19年12月1日
- 場 所 三次市文化会館 2階大会議室
- 講 師 斉藤 幸雄氏
(広島国際大学工学部 建築学科教授)
- 情報提供 伊達 浩史氏
(三次市建設部みらい都市室 主任)
- はじめの挨拶 上木 薫
ひろしま住まいづくり支援ネットワーク
(広島県都市部年事業局住宅室専任主査)

＝第1部＝

- 講 演 斉藤 幸雄氏
「木造住宅の地震被害と耐震性能検証実験」
- 情報提供 伊達 浩史氏
「耐震診断・耐震改修の補助制度について」

＝第2部＝

- 講 演 斉藤 幸雄氏
「伝統的木造軸組工法建物の耐震性と耐震補強の手法」



- 質疑応答
- 終わりの挨拶 磯井 和雄
(社)広島県建築士会県北支部 支部長
- 参加者数 75名



基調講演

『建築家 石山修武 ひろしまハウスを語る』の報告

「昨年の7月24日、広島国際会議場にて“公開まちづくりセミナー2007”が開催され、前半の基調講演で建築家の石山修武氏より、約10年の歳月を経てカンボジアに完成した“ひろしまハウス”についてご講演いただきました。前広島市長の平岡敬氏と、進行役の広島県建築士会の錦織亮雄会長に加わっていただいた後半の鼎談では、広島市民の使命・権利とは何か?といった話へと展開していき、最後は石山先生からの「ヒロシマ方式のまちづくり」という提案でこの講演会が締めくくられました。

市民ボランティアと建築家による国際貢献で生まれた“ひろしまハウス”が、今後何を生み、残し、どう広げるのかを広島県の建築士が見守っていく必要があるということと、またさらに「ヒロシマ方式のまちづくり」を具体的に考えるきっかけとなるように、ここに基調講演のご報告をいたします。

後半の鼎談はこちらでご覧いただけます。

<http://www.k-hiroshima.or.jp/news/documents/teidan.pdf>

事業委員会 神岡 千春

『建築家 石山修武 ひろしまハウスを語る』

こんばんは。石山でございます。

1年ぶりくらいの広島で知ってる顔も随分いて、広島に来るとまた広島のおばさんたちに会ってしまうのかとったり、広島に来るのは2／3以上楽しみで1／10くらい怖いような、前向きに複雑な気持ちで来させてもらっています。1週間くらい前に東京の岩波ホールという試写室で映画を観ました。これはまもなく広島でも公開される、ご覧になった方もいらっしゃると思いますが、スティーヴン・オカザキという日系アメリカ人3世の映画監督がつくった広島の被爆ドキュメント映画です。岩波も私が皆さんと一緒に“ひろしまハウス”をつくったことを情報で知っていますので、当然来るようにということで足を運んだのですが、その映画に関しましては仰天しました。私も長いこと広島の方々と一緒に“ひろしまハウス”をつくっていたのに仰天しました。100人ほどの試写会では、女性は広島のおばさんたちと同じくらい強いですが、男性は二人卒倒し運び出され、観客は映画を観終わったあと、しばらく5分か10分は座ったきり動かないという不思議な風景にでくわしました。私はそのときにこれはどこかで見たなあという印象にとらわれました。私は皆さん方と一緒に10数年間カンボジアに“ひろしまハウス”のレンガ積みツアーをしたのですけど、そのときぼくもそうでしたし皆さん方もそうだったと思いますが、さしあたり楽しみたいしアンコールワットも見たいし、ちょっと好奇心もあるしという1／2くらいは観光気分で行くのですね。単純に言いますと、虐殺された頭蓋骨が並べられているところに出くわして、さすがにそのときは1時間くらいあんまりみんなしゃべらなくなり、いい沈黙というか緊張した沈黙を体験できて、それが広島の方々とカンボジアにレンガ積みツアーに行った最大の体験だなと思います。貴重な財産だった。要するにしゃべりたいのですけれど、何かを声高々に主張したいのですけれど沈黙せざるを得ない、そういうたぐいの体験が何回かありました。このドキュメンタリー映画、是非ご覧になるべきだと思います。特に広島では若い人を中心に全員で観ていただきたいと思います。私は“ひろしまハウス”をつくり、市民のお母さん方とかお子さん方とかとか平岡さんと一緒にさせていただいて、平岡さんが最初から“つくり出す平和”と言っておられたのを最初頭では理解できたけれど、身体では理解できなかったのですね。そういうことを何年も、義務感であったりそれから楽しかったりということも当然あり

ましたし、理想に近づきたいということもあり、繰り返しレンガ積みツアーに参加させていただいて、だんだん身体でわかってくるという体験をしました。そういう経験を振り返ってみたいと思います。難しい話は一切いたしませんし、今日は建築士会の集まりですけど普通の耐震構造ということよりももう少し大事な、耐震が大事ではないということではないですよ。もう少し深いところの話をできたらいいのではないかと思います。普段こういう話はしませんけれども、あえて我々と言わせていただきますが、我々と一緒に“ひろしまハウス”を建てた仲なのでそういう人たちはそういうことを照れないと言える権利がありますので、そのことをいくつか振り返ってみたいと思います。

実は“ひろしまハウス”の建設に関して広島市の市民、皆さんのみならず県庁のお力もありましたし、いろんな方々のお力があつたのですが、世界中からもたくさんの力をいただきました。その中で一番熱心にといいいますか広島を身近に感じてくれたのがドイツの人たちでした。

「バウハウス」の機能主義



今みなさんに見ていただいているのはドイツのワイマールです。建築関係の方はご存知ですけどモダンデザイン、近代建築の始まりみたいなところでバウハウスという運動がありました。たとえばここの建物を設計した丹下健三先生もそのグロピウスのバウハウスの機能主義という道を踏襲している先生なのです。私はそこにたびたび行く機会がありました。何年かに1度はバウハウス大学に行くのですが、そこの先生方は必ずブッヘンヴァルトというところの収容所に連れて行くのですね。ドイツにはいくつも収容所があります。彼らは絶対残し続けるのです。行くたびに案内してくれる。気持ち悪いから「もういいよ、違うところへ連れて行って。」と言ってもし繰り返し繰り返し連れて行かれる。なぜこう繰り返し

連れて行くのか？と聞いたらその先生たちは、またやるに違いないから、またナチズムのようなことをやるに違いないから、そういう可能性が非常に強いから、忘れないためにお客さんを連れて行くのだと言うのです。そういうことを照れずにまともな顔をして言うわけです。それを聞いたときちょっと肩身が狭いなあと。何が言いたいのかということ、日本人が忘れやすすぎるのではないかと。そのことは私も痛感しておりました。日本人は忘れやすすぎる。私はレンガ積みツアーをやり始めていたけれど、まだちょっと我々はそういうことは忘れてないのだよと何となく言えないような気がしていました。そういう教育も受けてはいませんでした。それでブッヘンヴァルトに連れて行かれ、意義とどういう歴史を持っていたかということが繰り返しわかるわけです。それは苦痛だった。でも絶対連れて行かれる。絶対収容されちゃうわけです。何でこんなにしつこくしつこくモノを残し、しつこく説明されるのかということを考えるようになりました。

ブッヘンヴァルトの収容所

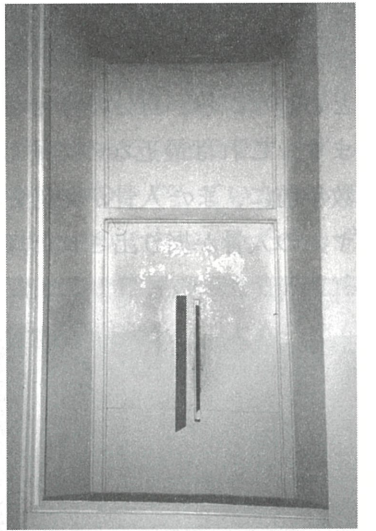


これはユダヤの人たちを焼く焼却炉です。ドイツ人ですから非常に合理的です。これは機能主義の始まりだとバウハウスでは教えています。収容所の機能、プランの作り方は機能主義の典型である。いかに合理的に殺し、いかに合理的にすばやくごみとして処理するか。油をしぼり血液を抜き取るか。これが機能主義のひとつの中核なのだということを建築の先生が教えるわけです。それはあなた方の大学が機能主義を始めたのだらうと言ってもしそれはそうであると。それは非常に機能主義、近代の考え方というのはきわどい瀬戸際にあるのだということを、こういうものを通して教えるのです。あまり気持ちよくないのですが、これは人を殺して天井からフックにつるし身体の汁を流し、溝に流し、ひとつに集約しこれを何かに使うということを計画しています。



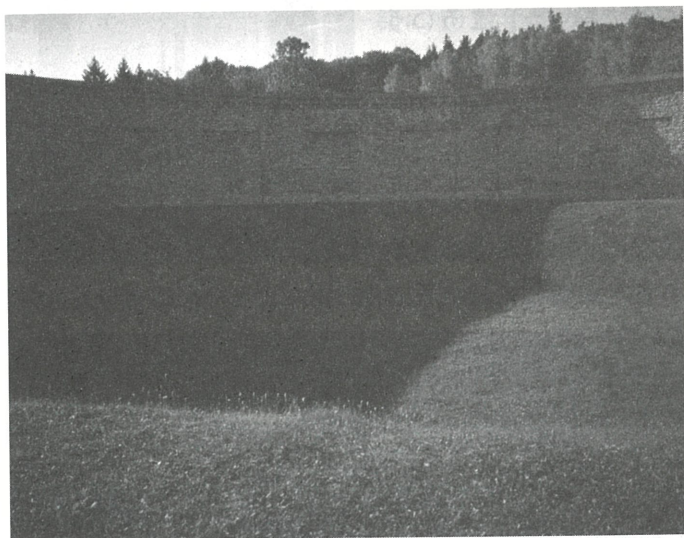
それを全部残してあるのですね。アカデミーを中心として、建築家の方々も残すべきだと。絶対に残すべきだと。それはまたこういうことをやる可能性があるから残しておかねば危ない。広島における原爆ドームの意義と全く同じです。どちらが風化していないか？ということが問題だと思います。

ここは焼く前の死体置き場です。これはこの細長い穴のあちらにユダヤ人を身長検査と称して立たせ、あるいは座高を測ると座らせてこちら側から銃で撃った。こういうのを延々と見せられるわけです。そうするとだんだん気持ち悪くなってくる。人間というものは非常に邪悪な多くの面があると痛感してわかるようになる。

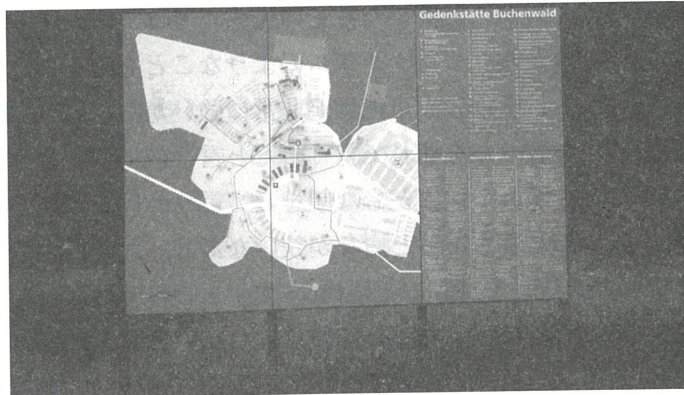


これは収容所の建物の跡です。敷地全体が残されている。風がビュービュー吹き渡り、アジア的に言うと祇園精舎の鐘の音じゃないですけど、その耳元でバウハウスの建築の先生が又やるようになるかもしれないと言うと、気持ちがしーんと冷え切ってくる。こういった施設

を残しているという意志が、ドイツ人の気持ちの中にある。これは広島原爆体験とは少し違う意味合いがありますが、私たちが広島市民の方々、平岡市長と何度となく話し合ったのは、ナチスの強制収容所の問題とカンボジアのポル・ポトによる大虐殺、それから広島原爆投下というのは、20世紀における人間の三大悲劇であるということをはきちんとしておかなければならないということがあります。それから僕は建築家というよりも、ものをつくる人間として、どんな犠牲を払ってでも参加しなければならない。参加する意義があるというようなことを、ほのかに感じたことがあります。そのかわり、みなさんとレンガ積みをしたり、平岡さんから“つくり出す平和”というものを教わったりして、だんだんそれが信念というわけではないのですが、みなさんもグラグラすることありますよね。それがぶれなくなってくる。これは芯が通るっていうか、自分を疑わなくなるっていうんでしょうかね“ひろしまハウス”に関しては。“ひろしまハウス”とか、世界各地の悲劇的なところの学習をとおしながら、自分の考えが蓄積されてきたように思います。これは最近なのですけど、最近といっても10数年前に、まだ人骨が発見されるんですね。これはユダヤ人の人骨が掘り出された穴です。



それでまたこの穴を残す。全部残すんです。これには随分、市民たちと議論があったそうです。ワイマールというのはバウハウスの発祥の地ですが、アドルフ・ヒトラーが最も愛した都市で非常に美しい都市です。ヒトラーはこの都市の小さい広場で演説するのを好むのですね。非常に因縁の地なのですけども、自分たちの犯した虐殺の痕跡を全部残そうとしている。それに対して市民たちも喧々諤々と議論を重ねる。そして大体いつも、7：3とか6：4ぐらいの割合で全部残していくということに決まっていっていったようです。



これはこまかく説明できませんけれども、ドイツ中からユダヤ人の方々にここに連れて来て、このような施設やここで虐殺したということを私のような外国人、それから子供たち若い人たち、そういう人たちに全部見せて教えるということですね。そういうことをずっと続けている。

“ひろしまハウス”を建てた プノンペンのキリングフィールド



これは我々が“ひろしまハウス”を建てたプノンペンのキリングフィールドです。プノンペンへ行きますと、バスの中から通りかかる風景でこういうところがあります。やっぱりそういうときには言葉少なになります。建築家の方々に申し上げますけれども、建築にはそういう非常に大事な意味合いが、非常に強い意味、価値があるということを感じました。これは私どもも学生たちも、このごろあまり死体とか人間の惨状とかそういうものに直にふれるという体験がございません。それから平岡さんのお母さん方から「このごろ平和記念館に修学旅行で来る人たちが少なくなって、中で小学生の子供たちが笑いながら走りまわようになってきた。」ということを知って、僕も「おっ」と思うようになったんですね。広島の人たちの記憶がというよりも、ヒロシマの存在そのものが

が風化してきているのではないかと感じている広島市民がいるということにそのとき気づいたわけです。こういうのも見ていて気持ちいいものじゃないですね。人間というものは僕を含めて愚かですから、時々具体物を見ないといけな。我々ものをつくる人としては、ものをつくるということはそういう記憶とか理想とか理念とは何かということ、物体を通して理解しやすくなる。バーチャル、理想、空想、本で読んだといっても、それは理解しきれないですね。我々はそんなに賢い生物ではない。僕の学生もこういうものを見たり体験すると、何ミクロンかじわりと成長しているのかもしれないですね。それから繰り返し言いますが、寡黙になってくる。そういうことをここ10数年感じ続けております。

●ヒロシマ・ナガサキを風化させないために

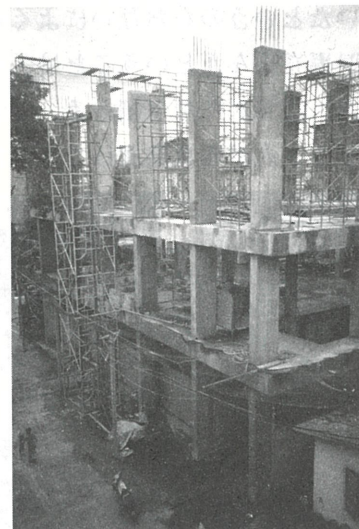


これは原爆ドームです。僕も広島へ来るたびに思うことですが、プノンペンの“ひろしまハウス”というのは、風化させないためにこれをもう1回創ったのです。ですからある意味で、鎮魂歌なのです。備忘録っていうか。我々は忘れやすいですね、どうも。我々は忘れやすい非常に不思議な生物だと思います。広島の人々のすごかったことは、わざわざプノンペンまで行って、ポル・ポトに何百万人も虐殺されたところと広島の被爆者の思いは同じだというような想像力が広島の人たちに残っていたこと。非常に大事なことです。そのこと自体を記録していかないと、あと10年20年経つと忘れられます。忘れられるということはこわいことですが、忘れるということはもっとこわいですね。

●“ひろしまハウス”について



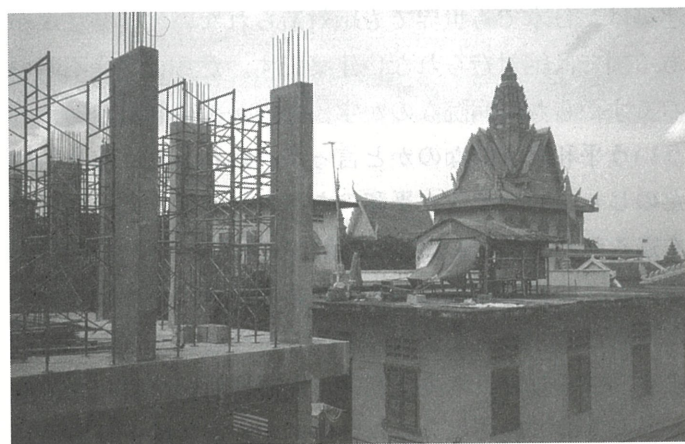
これは初期の“ひろしまハウス”です。既に広島市民の方々が、このように小さい木工所をつくっておられました。広島市民の人たちとは和気あいあいとやりましたが、何十回も意見が対立しましてですね、それも楽しかった。理想のために何かやっていると、喧嘩もまた楽しいですね。それから理想のために何かやりますと、お互い照れないですよ。まあそういうことではいろんな行き違いがありましたが、その一つ一つの行き違いが大変価値があったのじゃないかと思えます。最大の面白かったことは、広島のおばさんたちが「石山さん、小さいものでよかったのよ。小屋みたいのでよかったのよ。」と。僕は基本的に、“ひろしまハウス”が完成しちゃったので残念だと思っていたのです。ずっと未完のままで、もっとでかいものを作っていたかったですけど。これはしょうがないですね。ただ少しずれがあるんですね。おばさんたち、市民のみなさんたちがもうちょっと簡素で、簡単に身近なものでよかったんだという感じと、僕は“ひろしまハウス”として世界に名乗るのだから、もうちょっとでかくてそれからもうちょっと人間の尊厳に満ちたものにしようと考えてのですが、両方に正しさがあったと思います。これが一番最初の“ひろしまハウス”です。それからだんだん僕も皆さんがんばっちゃったので、何に使われるかはっきりしないのに、どんどんでかくなったんですね。そしてこの建築は、日本でも世界でも絶対造られない。建築法規がある国では絶対造られない建築です。だって使途不明なのですからね。病院なのか学校なのか美術館なのか、こういう平和記念館なのかと言って、われわれは造り始めたのじゃないのです。平和のための備忘録みたいなものを造ろうというようなことで始まった建築っていうのは、意外とこの世界ではこれが、まあ他にあるかもしれませんが、恐らく最大のものだろうというふうに思います。つまりこれは先ほど言った収容所、バウハウスみたいな機能主義では全くないのです。これはもう違法建築ではないですね。無法建築なのです。これはいい意味での無法建築です。ある意味で言えば理想のかたまりなのです。それから僕の役割というのはデザインもちよ



ったのですけれども、材料をレンガでやろうと。最後は何かの補助金があって、ぱっとできあがったわけですが、僕は実は自分が生きている間にできればめっけものだというぐらいの気分でした。多分平岡さんもそうだと思うのですよね。それで僕も平岡さんもできあがったときに、何となく悲しげな顔をしていたというのをお互いによく覚えているのです。あのレンガを選んだということは一人一人の素人、つまり市民の人たちがこれを積める。ですからここは、延べ何千人という人がもう参加してくれているのです。

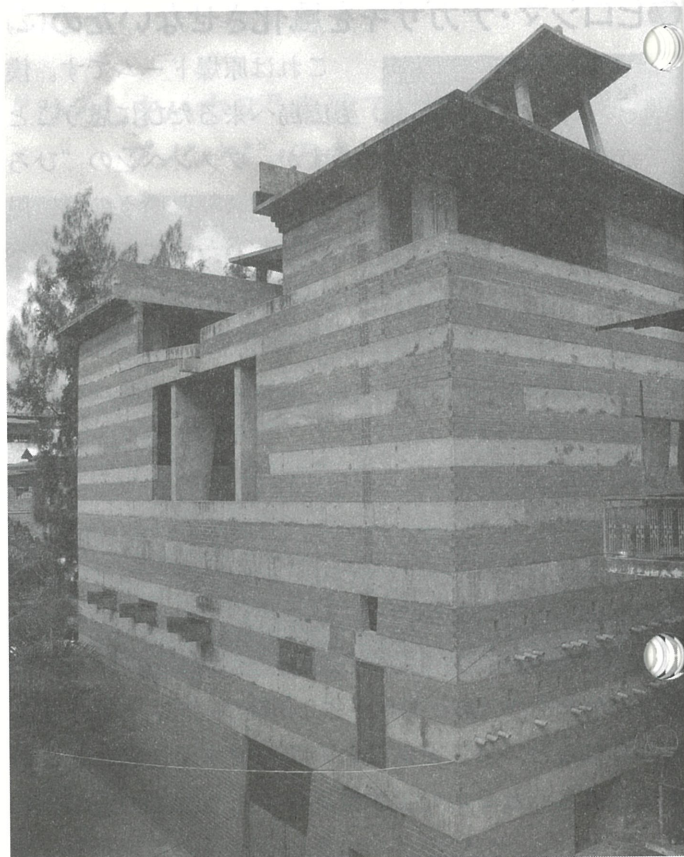


参加してくれた広島陽気なおばちゃんたちも、何かのお金を出してくださいました。そういう人たちにとっては、みんな自分の建築になっているのです。我々は今日のテーマであるまちづくりとか、他人事のようにいつも聞いているわけなのですね。まちづくりっていい言葉なのですが、縁遠い。それはみんな自分のものだと思ってないからなのです。“ひろしまハウス”に関しては、レンガを積んだ人、お金を寄付してくれた人、寄付しようと思って寄付できなかった人、それから寄付しなかった人も含めて関心を持った人は全部、自分たちの建築だというふうに思っているところが僕はすごいところだなあと感じます。



“ひろしまハウス”が建てられたウナローム寺院って、カンボジア最大の日本で言うと東大寺みたいなところなんです。カンボジアの小乗仏教のメッカなのですけれども、

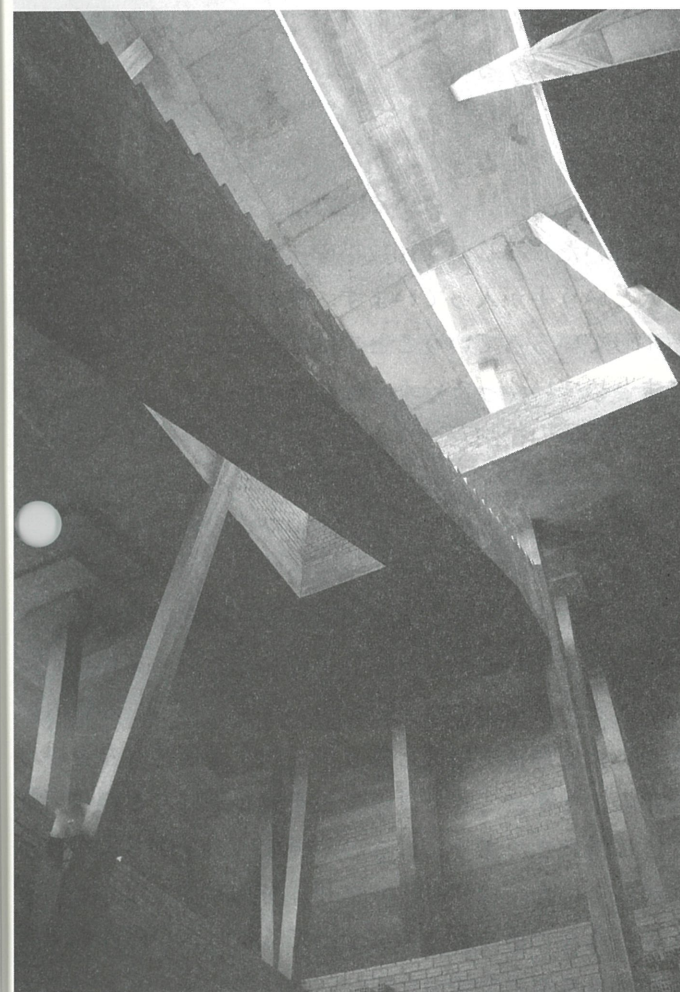
ここが無法って言いますけれども、実はカンボジアで今のフン・セン政権が変わっても一番安全なところ、最大のお寺の境内にありますから、何があっても没収されない。軍事政権は怖い。没収されるようなことはない。ただし本殿はなんとあのポル・ポトが、内戦の時に司令部に使っていた建物なのです。この本殿でポル・ポトが色々指令を出していたのです。それぐらい逆にこの場所ってというのは、カンボジアの要の土地だったのです。ですからみなさんの“ひろしまハウス”は、実にそれほどばかどかいものではないのですけれども、カンボジアのメコンとトレンサップリバーが合流するカンボジアの要の土地にあって、恐らく未来永劫、コンクリートの耐久性がどうのこうのと言いながら、廃墟になってもずっとここに残り続けるのだらうと思います。



それで皆さんが大変がんばって、それから県からもお金が出たりして立派な建物が出来ました。レンガを使ったというのは、広島には丹下さんのこの建物ともうひとつ、村野藤吾という建築家が設計した記念堂がありますね。あれもレンガです。ものの考え方がちょっと違って、レンガというのは人の手で積めるというところがポイントにあるのですけれども、村野先生の記念堂よりもよほどこのカンボジアの“ひろしまハウス”というのは、理念的にはずーっとストレートなことをやった建物だらうと思います。なぜならみなさんがレンガを積んだからですね。こんな建築はたぶん世界にはないのです。

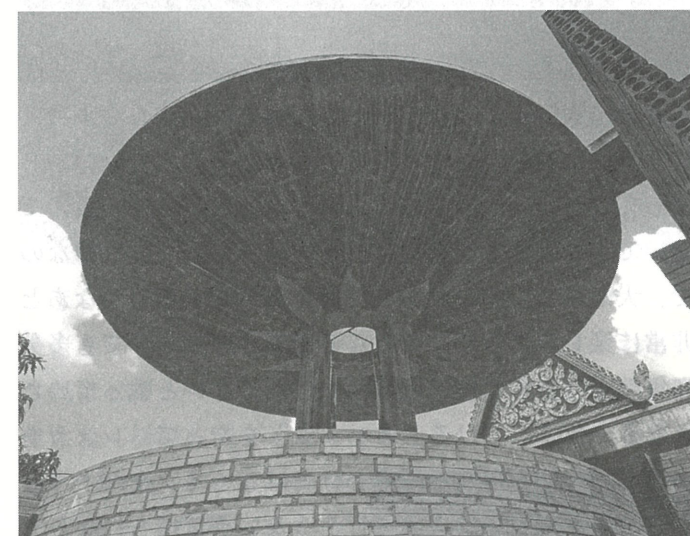


二階は、カンボジアの地雷で足を吹き飛ばされた人のための手こぎ式三輪車をつくったり、木工所として使われたりというようなところ。これからはこの使い方で、喧々諤々があるかもしれませんが、楽しいことだろうというふうに思います。ここは使い道がある。これは2階3階・・・結構きれいなデザインだと思います。

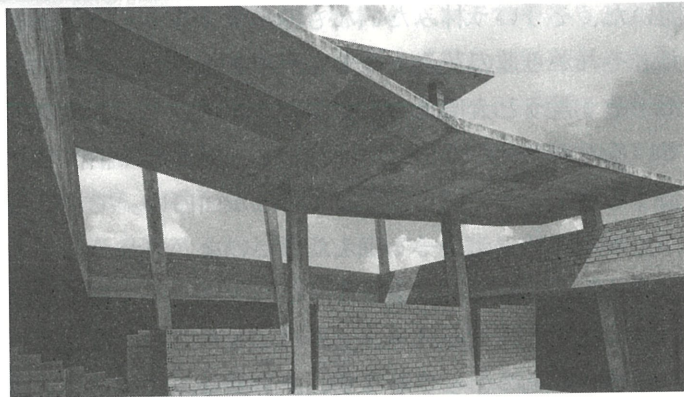


いいデザインがされていると思いますけれども、カンボジアの人たちに、なぜこういう格好をしているか説明しなければならないのです。これは今の建築士の皆さんのように動線がどうだとか、機能がどうだという説明は逆に通用しないのです。仏さんが菩提樹の下で悟りを

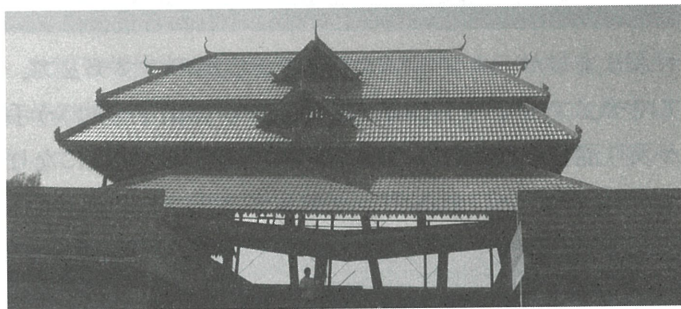
開いた、そういう林みたいなものをつくろうと思いました。それから蓮の花みたいな水浴場を作ろうと思いました。そう言う大僧正さんもお寺のお坊さんも、分かっているのかは分かりませんが、何となく納得したような顔をしたというようなところが面白い。でもここは、本来はギャラリーで使えたらいいな。それからプノンペン芸術工科大学の学生さんたちに使ってもらえたらいいな。それからアンコールワットへはもう飛行機便の直通が主流になっちゃっていますから、プノンペンに観光客がすごく減っているのです。広島ばかりでなく日本の建築士の皆さんは、アジアの街づくりをお手伝いしに行かなきゃならないような時代になっていると思います。このプノンペンのまちづくりというのは特に広島の建築士、建築家の皆さんは、お手伝いする権利と義務があるだらうと思います。ここは、本当はお土産工場かなんかにするといいいですね。床のタイルはベトナム製のタイルです。色んな素材が入り混じっていますけれども、建築的な配慮であって、一番大事なのは皆さんが一個一個レンガを積んだということです。それから最後にプロが入りました。カンボジアのプロと広島のアマチュア、アマチュアっていうのは市民のことですね、そういう手が入り混じったというのは、世界的に稀有な建築になった原因のひとつだらうというふうに思います。



これは水浴場。カンボジアは雨の国ですから天水を受けて、このまるい中でみんな水浴びする。まあ、そういう水浴場です。ここで広島のおばちゃん達と、トイレの便器をウォシュレットにしてくれとか、いろんな面白い問題がありまして、カンボジアまで来てウォシュレットはないだらうって言っても、でもウォシュレット欲しいのって言うから、「もうちょっと考えろよ。」ぐらい言ったと思うんですが、まあそれもいいのじゃないかなというふうに思うようになりました。

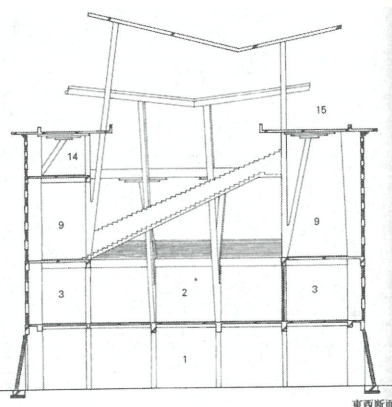


これは仏足。仏さんの足が、仏さんが西へ西へと歩いて行くってようなことを、確か平岡さんと同席した上棟式の時にあいさつで申し上げたことがあります。プノンペンの市長さんがそのときに来ておられて、カンボジアでもう一度内戦がおきたら“ひろしまハウス”は西のほうへ歩いていくぞって言ったら、そのジョークがわかって嬉しそうにみんな笑ってくれたということを記憶しております。今この仏足の上に屋根がかかったのですね。ものすごくでかい屋根がかかりました。



寺院の大僧正が最初の頃、本殿より高くするなよって言っていたのですが、今ではもう本殿の高さに近づいちゃっているという非常に不思議なことが起きているのです。でも今回は大僧正が屋根をかけろと言われた事なので、大僧正さん、これを見て何をおっしゃるのかなあと非常に楽しみにしているところでございます。でも多分15年前だったら、僕は屋根はかけたくないと戦っていたと思うのです。“ひろしまハウス”をやって、レンガを積んだから仕方が無いってわけではなくて、全部ドキュメンタルな事と受け入れて行こうという気持ちになりました。自分なりに成長したのだと実は思っています。屋根がのった姿がなかなかいいのですね。今日は専門家の方が多ということで、図面など用意してきました。いろいろな使い方ができます。これからは皆さんの腕の見せ所というか、プノンペンの街づくりの核になりますから、生かしていくというのが大変な課題です。宿泊所にも使えます。集会所にも使えます。ギャラリーにも何にでも使えます。上の方には記念ドームのようなものがあります。実は、日本中世界中から沢山の寄付をいただき

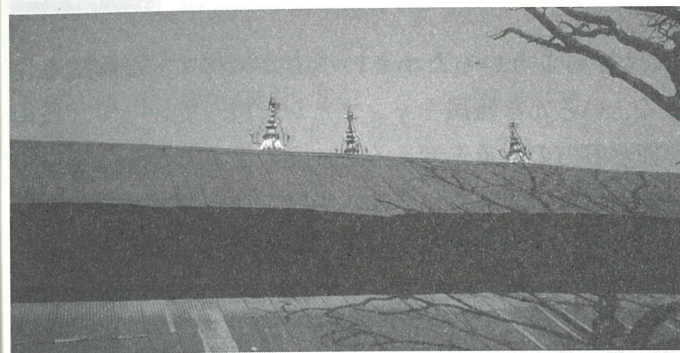
ましたし、いずれはそういう人のネームプレートを取り付けたいいけないかと思っています。特にバウハウス大学の、ブッヘンヴァルトの収容所に私を連れて行かずにはいられない



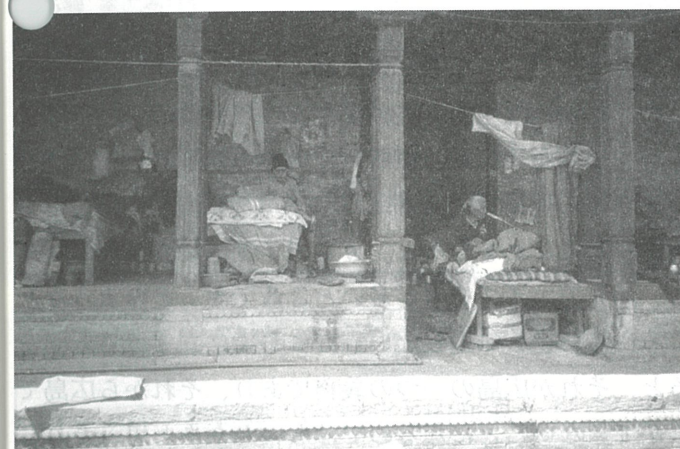
い先生はじめ、ドイツには、「石山さんや広島市民の方々がやっている事を知らなかった。自分たちの勉強不足が恥ずかしい。」と言ってくださる方が大勢います。知らなかったから知らないのじゃなく、知らなかったことがまずいと。というわけで、本当にドイツの学生が沢山来ました。中国の学生も台湾の学生も。口で言うインターナショナリズムではなく、レンガの積み方が国際的になっています。この斜めに走っているのは階段です。広島のおばちゃんたちは、何でここにこんな吹き抜けのようなものをつくるのだろうとおもったと思いますが、世界で唯一の“ひろしまハウス”ですからね。人間の尊厳のようなものを表すものがないといけません。この階段・・・空に昇っていく階段は、そういうためにあるようにいたしました。10数年やっていましたから、百何十人という手が入っています。僕がワンマンにコントロールしているってということではないのです。少し緩やかにまとめていくってことくらいが、デザイナーとしてやった僕の役割だと思っています。いろんな人間の手が入っています。それから出来上がって、ほぼ出来上がったから言えるのですが、下手っぴな人の手も入りますね。「お前建築デザインやめたほうがいいよ。」ってな人の手もたくさん入っています。広島市民の皆さんと“ひろしまハウス”を作り上げました。まあ作り上げつつあると言った方が良いでしょうと思いますが、これは本当に大変類稀な自慢と言うか、我々が自慢しちゃいけないのですが、これだけのことを成し遂げたという自覚だけは持たなくちゃいけないのですね。平岡さんがおっしゃっていた“つくり出す平和”を物で作った。とするといろんなことを言う権利が出てくるし、いろんな可能性が出てくるのですね。

「死を待つ人たちの家」

これは僕が世界中で実は一番感動した建物のひとつなのですが、ネパールにある「死を待つ人たちの家」という病院です。



これを主宰しているのが、亡くなったけれどマザーテレサ。これみなハンセン氏病の人ですね。僕は学生のころ馬鹿だったから、インドとかネパールにしょっちゅう行って、ハンセン氏病患者の死を待つ人達の家って言うのを知らないで、観光気分でここに入ってほんとと卒倒しそうになったんですけど、ものすごく怖いところでした。



日本に居たらこういうところは全然見られませんからね。硬直しているし物忘れは激しいし、馬鹿になっちゃっているんだ我々は。時々こういったものを体験しに行かないと、人間の良心とか理想とか目覚めのないような、そんな気分さえある。ここは2回通って中に入れなかったのですが、5年前に行って3回目で初めて中に入れました。非常に怖かった。しかし、建築士や建築家は医者が必要ではなくてはならないところまでやる必要はないのです。例えば僕のところも、“ひろしまハウス”をいっしょにやらせてもらってからアフリカより、うちに都市づくりに来てくれとか、そういったことを言われるんですけれど、

ど、危険度最大のAクラスで、「うちの若い者の人命を保障してくれますか？」っていうと、「保障できない」と。僕はそこへはいけません。僕は医者だったとしても行かないと思います。せいぜいものづくりですから、「そこまではできません」と言えるようになったのですけれど、そういうふうなことを広島の人達と仕組みでやってみたいなあというようなことを実は思っているのです。何でこれを皆さんにご覧頂いているかといいますと、僕は広島の特に若い人に言いたいのです。特にアジアとかアフリカまでは行かなくていいですが、そこまで精神をふるい落とす必要はないのですが、アジアくらいまでは行って、困っている人とかピンチに陥っている人達を、ボランティアで良いから助けるべきだと思います。やっぱり広島と長崎と沖縄の人には、その義務と権利がある。それを声高に言う当然の権利がある。“ひろしまハウス”に参加した人達には絶対に、その義務が発生していると言うことを、ちょっと中位の声で申し上げたいと思うのですね。こういった人達が日本にも居るのですけれど、アジアには膨大に居ます。ものすごくたくさん居る。



ほんとうに近代建築の一番根本は、“ひろしまハウス”を皆さんと一緒に作ったからこそ言えるんですけど、これはヒューマニズムです。それ以外ではありえないんですね。機能主義でもなんでもない。やっぱり一番大事なのはヒューマニズムです。僕も“ひろしまハウス”の現場では、元気のない学生とかさぼり気味なおばさんとかを結構怒鳴ったりしたんですけども、そういう人達からは逆に随分教わったんですね。いろんなことを教わって、すごくいろんなことで身に付いていると思います。

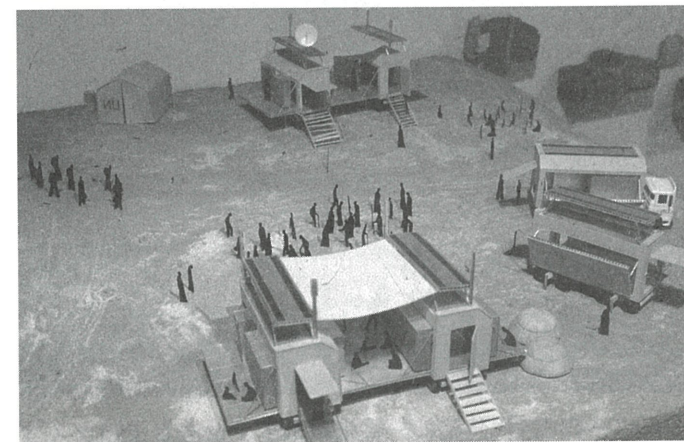




これは僕が世界で一番美しいと思っている庭園です。ネパールは今、毛沢東主義者に占領されて、戒厳令でなかなか入るのが厳しいです。そこの「死を待つ人達の家」です。こういうところでボランティアしている人の大半はヨーロッパの人です。

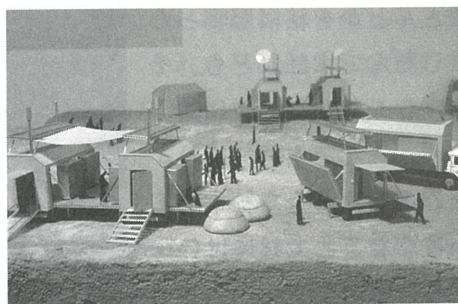
ヨーロッパの人はあだこうだ理屈は言うけど、こういうところに来ると強いですね。やっぱりなんていうのかな、ヒューマンイズムの強さがちょっと日本人は弱い気がしますけれど。

日本人として実現させたい夢



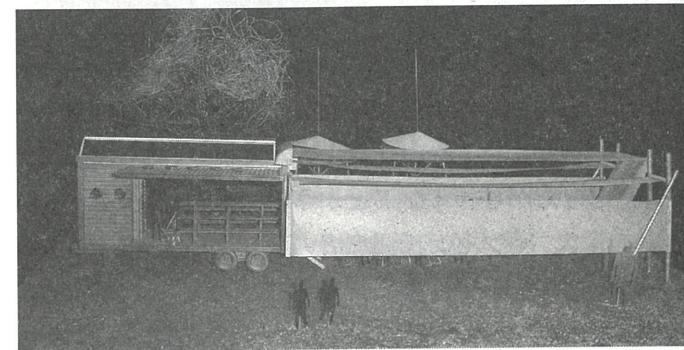
これは、僕は生きている間に実現したいと思うのですが、国連に提案しているハイテク、日本って言うのはやっぱり技術、今のところ日本の取柄って言うのは残念ですけど、経済と技術だけです。

世界も明らかにそう見ている。品格って言うのは、実は日本には求めている。それを自覚すると、自覚してちょっと反省するっていうのは大事なことですけれども、でも経済は段々駄目になっているでしょうけれど技術はあるんですね。日本人は小さいものを作るのが好きな



んですね。

ですからこういった小さいハイコンパクトな病院を作って、いろんな難民キャンプとかに持って行って、技術の使われ方の対象を変えるというのをこれからはやっていこうかなと思っています。当然“ひろしまハウス”に対しても、もちろんひとつ提案があるんですね。



これが最後のスライドです。これは“ひろしまハウス”。いつも僕は勝手にこういったものを内緒で作っちゃうんですが、“ひろしまハウス”の中に移動図書館、移動診療所っていうのを小さいコンテナを使って1階に入れてですね、移動診療所みたいなものをあそこに置いて、日本の医師団と連携してこれを5年後くらいしたらそういったことをやると。カンボジアは世界最大のエイズ、幼児のエイズ患者が多いところですよ。そういうところにも、少し無理しない程度にお役に立てることがあると、それが広島の一つの義務であり、それから広島でしかできないことになるのではないかなあと思ったりしております。

これは余計な差し出がましいことかもしれませんが、冒頭で申し上げました「ヒロシマ、ナガサキ」という、日系アメリカ人3世の映画監督が作った映画というの、カンボジア人が見るチャンスはほとんどないですから、例えば岩波とかスティーブン・オカザキさんとかに相談して、皆さんの手で上映会のようなものをプノンペン芸術工科大学とか政府に相談して、“ひろしまハウス”のあのホールで上映会をされるというようなことでも進めていただきたいなあという風に思うわけです。たくさんいろんな余計なことと言いましたが、最後ですが、ほんとにおばちゃんたちといろいろ言い合ってた嫌なこともありました。あの人は二度と見たくないといった人もたくさんいたのですが、嫌なことはみな忘れました。良い格好して言ってるんじゃないで、みなさん広島の人から教わったことは膨大にあって、それをこれからアジアの人のために使っていきたいなあ。そういう風に思うようになったのは、広島のおかげさまかなと思っています。

作品紹介

広島支部 さとに田園クリニック

- 設計施工／(株)竹中工務店
- 所在地／鳥取県鳥取市里仁
- 構造階数／クリニックRC・S/F1、薬局S/F2
- 敷地面積／3,180㎡
- 建築面積／959㎡
- 延床面積／950㎡
- 写真撮影／(株)竹中工務店

鳥取市街地に近接しながらも田園風景が残る環境に立地する人工透析・泌尿器科のクリニックである。この地域で不足する透析・訪問診療の充実、過疎高齢化が進む地元の活性化への思いにより、「医療・福祉モール」構想の1期工事として計画した。

全体構成は、診察・待合・透析・薬局の機能ごとにスケールを分節し、柔らかに弧を描く軽やかな屋根の連なりによって、田園の中にたたずむ集落のような風景として、環境・地域との調和を図った。

医療空間は、季節や時間と共に変化する光と影、揺れる緑、風の香りなどの自然の移ろいをどこでも享受できる五感に訴求する空間づくりを行い、患者さんのQOL（治療・生活環境の質）を高めている。

また、環境への配慮として、安定した採光・眺望を確保するために北側を高くした傾斜屋根を利用して、日射熱を利用した重力自然換気・暖気利用による自然エネルギー活用を行っている。



内観写真

広島支部 ヒロボー・ライブファクトリー

- 設計／基本設計：GKデザイン総研広島
／実施設計・監理：清水建設（株）広島支店
- 施工／清水建設（株）広島支店
- 所在地／府中市桜が丘
- 規模／2階建
- 構造／鉄骨造
- 用途／工場・付属展示施設（一部飲食）

- 敷地面積／17,412.78㎡
- 建築面積／3,117.30㎡
- 延床面積／5,070.23㎡

ラジコン・ヘリコプターのトップメーカーであるヒロボー株式会社が、創業の地である府中市に、「丘の上に建つ“見せる工場”」を造りました。

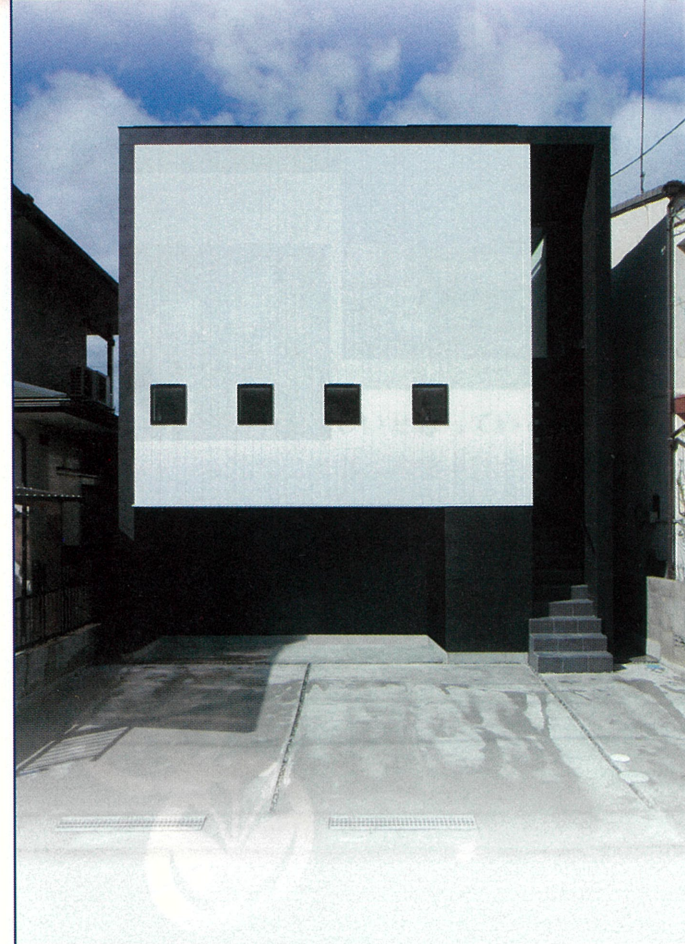
1階には製造部門を、2階には研究開発部門やギャラリー・ホール等を配し、製品のデモンストレーションもできる「芝生の丘」に面して、府中市街を見渡せるレストランも併設しています。複数の世界企業を抱える府中市の、産業観光の拠点としての性

格を兼ねるための施設づくりであり、そのコンセプトが「ライブファクトリー」という名称に込められています。

ガラスとパネルでシンプルに構成された外観は空に向かって軽快に飛び立つようなイメージを表現し、自然採光・自然通風をふんだんに取り込み、敷地高低差を活用して排出土量を抑えたトータルエコな施設づくりと相まって、ここを訪れる人々に爽やかな空間を提供しています。



呉地区支部 KURO*SHIRO



- 設計監理／建築工房K 竹岡誠二
- 施工／竹岡建設
- 所在地／呉市焼山松ヶ丘
- 規模／木造2階建て
- 用途地域／第一種低層住居地域
- 敷地面積／107.34㎡
- 建築面積／52.42㎡
- 延床面積／103.02㎡
- 着工／平成19年6月18日
- 竣工／平成19年11月16日



コンセプト：スキップフロアによって確保した最大限の空間を、あらゆる視線の抜けによって相互的につなぐことで、家族と自然の気配をいつでも感じることができる、優しい光に包まれたプライベートハウスが完成しました。



呉地区支部 呉ベタニアホーム長迫

- 設計監理／田村和正建築設計事務所
- 施工／株式会社増岡組呉本店
- 所在地／呉市長迫町
- 規模／地上2階建
- 構造／鉄筋コンクリート造
- 延床面積／493.10㎡
- 竣工／2007年3月



住宅地に建つ、地域の老人のための介護施設です。各住室で囲まれた内部の通路が、単に住室をつなぐだけのものにならないように考慮しました。世間話、うたた寝、お茶をいただく等、日常行為の混在する地域の路地を意識できる空間としました。



ここでは、閉鎖的ではない、利用者の自由で夢のある生活を支援する、若いスタッフによる介護が営まれています。



東広島支部 H邸新築工事

- 設計／株式会社イシタケ
- 施工／楠本建設株式会社
- 所在地／東広島市西条朝日町
- 規模／地上2階 328㎡
- 構造／RC造一部木造
- 用途／事務所併用住宅



住宅やマンションが建ち並ぶ市街地でプライバシーを確保をしつつ、採光できるように、LDKスペースは天井高を4.5mに設定しました。照明器具は電気工事業を営む施主様のこだわりです。

東広島支部 地域密着型特別養護老人ホーム 神郷の家



地域に愛される建物を目指して、昨年7月にオープンした。ユニット型特養29床で10人から9人による3ユニットに、ショートステイ7床とデイサービスを併設している。

現況敷地は古い石積みで造られた農地でしたが、高低差を利用して道路側1スパンを車庫と倉庫にし、上部を鉄骨造とし周辺環境と溶け込むように来待瓦を採用した。

各ユニットの内装カラーを全て変えて変化のある空間とし、ユニット間は自由に行き来が可能で、行き止まりが無く回遊できるプランとしている。

- 設計／(有)大江建築設計室
- 施工／(有)NIPPOコーポレーション 中国支店
- 所在地／東広島市福富町
- 規模／地上2階・地下1階
- 構造／鉄骨造(一部鉄筋コンクリート)
- 延床面積／2387.22㎡
- 竣工／2007年6月



東広島支部 社会福祉法人 新生会 八本松あおい保育園

- 設計監理／S・D建築設計事務所
- 施工／株式会社 上垣組
- 規模／平屋建て
- 構造／木造
- 敷地面積／2449.75㎡
- 建築面積／955.46㎡
- 延床面積／840.43㎡

八本松あおい保育園は乳児から5歳児まで、定員120人の保育園です。保育園はともすれば教育の場というよりは、子どもたちの生活の場として位置づけられておりますが、ここでは子どもたちに伸び伸びと生活し、そして学んでもらいたいと、子どもたちの教育に力を注いでいます。

子どもたちにより良い「生活、学習の場」を提供するため、園舎は自然素材を生かした木造とし、子どもたちに対し安全で優しい空間にするとともに、周囲に広いテラスを設け園庭と一体化した、開放的で明るい園舎にしました。

子どもたちの記憶に残る保育園になればと思っています。



三原支部 Hearts hair minematsu

- 設計監理／(有)共和設計
- 施工／(有)土生建設
- 所在地／尾道市因島重井町
- 規模／2階建
- 構造／木造
- 面積／1階：80.12㎡、2階：73.70㎡
- 竣工／2006年11月

みかん畑やスイカ畑が広がる郊外に建つ、1階が理・美容院、2階が住宅の建物です。

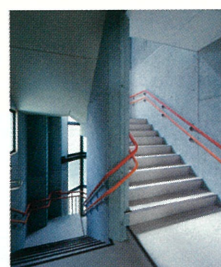
女性にも親しんでもらえる、ゆったりとくつろげる空間と色彩を心がけると同時に、1階のお客様に2階の生活感が伝わらない平面計画、外観に配慮しました。

昼間は青々とした緑が正面のガラスに映り込み、夕暮れ時には内側からあふれる柔らかな光の移ろいを楽しめます。



尾道支部 愛光園保育所

- 設計監理／(有)元廣建築設計事務所
- 施工／(株)セイム
- 所在地／三原市館町
- 構造／鉄筋コンクリート造3階建
- 用途／保育所
- 敷地面積／487.03㎡
- 建築面積／213.92㎡
- 延床面積／622.05㎡



三原駅の北側に位置する教会を併設した保育所。

近年の保育ニーズの多様化、幼保一元化の流れが進む中、病後児保育も備える街の中心的保育所として計画しました。

老朽化した園舎の建て替えに際して、園長先生より「木の温かみを感じられる家庭的な雰囲気としたい」との要望があり、木を生かした保育スペースづくりをしました。また狭い敷地のスペースを最大限に活用するため屋上にも園庭を設け、またその一部を芝生で緑化することで環境にも園児にも優しい保育所となりました。



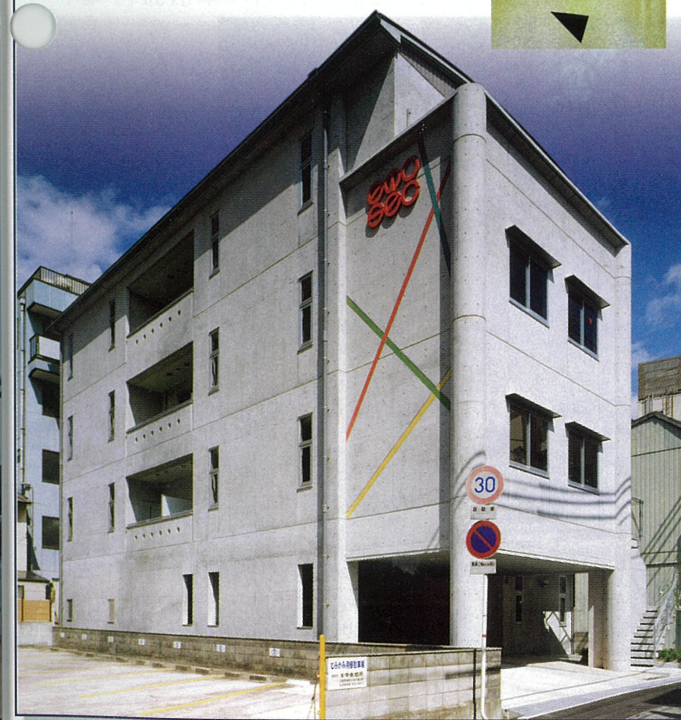
三原支部 Mビル新築工事

- 設計施工／山陽建設株式会社
- 所在地／三原市城町
- 規模／5階建
- 構造／鉄筋コンクリート造
- 延床面積／916.40㎡



本建物は、M社の事務所移転に伴い、プロポーザル方式で建築されたオフィスビルです。まず「快適なオフィス空間」をコンセプトとして企画・提案いたしました。

外観は、シンプルで落ち着いたコンクリート打放し仕上、内部には従業員の疲れを解消できる癒し空間として吹き抜けや和室を配置しました。さらにコスト面ではコンパネモジュールによる構造グリッドや、役物の排除等を積極的に取り入れてコスト削減を追求し、施主様の期待に沿えることのできる建物になりました。また、日経「中国ニューオフィス奨励賞」を受賞し、施主様と共に喜びを分かち合えることができた事業となりました。



県北支部 庄原市立敷信みのり保育所

- 設計／(有)谷口設計事務所
- 施工／小林建設(株)
- 所在地／庄原市板橋町
- 規模／平屋建て
- 構造／鉄筋コンクリート造
- 敷地面積／7,455.61㎡
- 建築面積／1,007.20㎡
- 延床面積／926.84㎡
- 竣工／2007年2月



正面玄関

保育室の配置を低年齢児と高年齢児ゾーンに分けて、2つのゾーンを遊戯室でつなぎ一体の建物としている。屋根形状を各ゾーンで変えて高さ方向に変化を持たし、玄関・ホールは上部から光がふり注ぐようにした。



南西側外観



西側正門

福山支部 正光寺本堂

- 設計監理／(株)堀江建築設計事務所
- 施工／平和建設(株)
- 所在地／福山市瀬戸町
- 主要用途／本堂
- 敷地面積／1,789㎡
- 建築面積／346㎡
- 延床面積／291㎡
- 完成年月／2007年9月
- 撮影／佐藤吉伸

門信徒永年の夢であった本堂の建設“400年先まで残る本堂を建てたい”―それがクライアントの要望でした。設計を始めてから工事の完成まで、3年少々の年月を費やしました。この間、工事に携った“大工棟梁、瓦葺師、左官、彫刻師…”これぞ職人業の極み！共に仕事できたことに感動もひとしおです。室町時代を経て、江戸時代に完成した日本独特の構造美と意匠が、この職人たちによって継承されているのだと実感しました。

現在の建築という仕

事を取り巻く環境の中で、伝統の建築技術を生かし続けていくことは大変難しいことです。しかし、それだけに建築技術に携る一員として、これを後の世代に伝え残していくことが大切ではないかと思っています。

4世紀後…この本堂の姿を見てみたいものです。



県北支部 卯建と白壁のふれあい館 三次コミュニティセンター

- 設計監理／有限会社 山谷建築設計事務所
- 施工／建築主体工事/株式会社ラインビル
電気設備工事/淡路電気工事株式会社三次営業所
機械設備工事/株式会社中電工三次支社
- 所在地／広島県三次市三次町
- 規模／地上2階
- 構造／鉄筋コンクリート造
- 延床面積／1,285.80㎡

三次コミュニティセンターは、三次市三次町にある旧街道の歴史や文化を生かした「夢街道地域」に認定された場所に位置し、街道にはシックイ壁やうだつのある建物が数多くある。

建物周囲は北西に県史跡「頼杏坪役宅」、そして西側は県史跡「三次社倉」がある。そのような環境の中で、このコミュニティセンターは周辺地

域の町家の伝統的なデザインに合わせたものである。

建物から頼杏坪役宅へのアプローチも内部から容易にアクセス可能な配置とした。

またこの施設は、町の中心的位置であるため、防災センターの役割を加えて住民が安全で安心して暮らせるものとした。



福山支部 ぎんがの郷小学校

- 設計／吉田建築設計事務所
- 監理施工／富士建設株式会社
- 所在地／福山市大門町
- 構造／鉄骨造、一部鉄筋コンクリート造
- 延床面積／2,385㎡

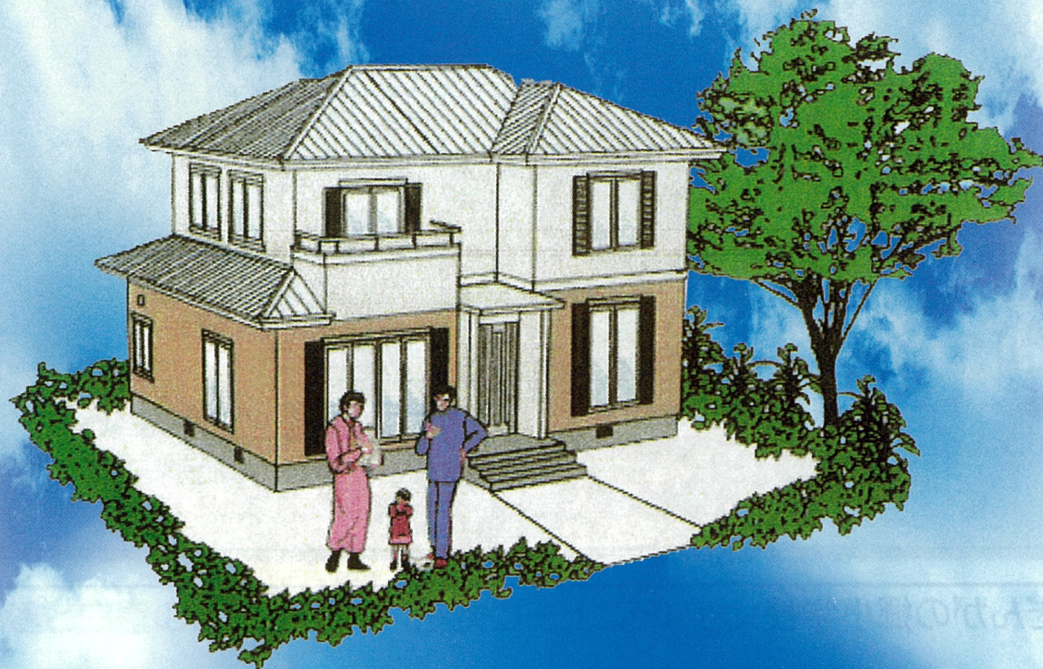
今春（平成20年4月）開校予定の「ぎんがの郷小学校」です。郷学「郷で学ぶ、郷に教わる」を基本理念としています。すでに敷地内には、銀河学院中・高等学校が併設されており、今春開校する小学校と合わせ小・中・高一貫校となります。

外観は周囲の空間と一体となるよう工夫し、落ち着いた色彩となっています。ビオトープも取り入れ、環境にも配慮しています。



広島建築住宅センター

安心で安全な住まいづくりを
私たちがサポートします！



(社)広島県建築士会と(社)広島県建築士事務所協会会員をはじめ、
銀行、電力会社、弁護士、会計事務所など、
多くの方々のご賛同をいただき設立した会社です。

皆様の温かいご支援をお願い致します。

業務内容

確認・検査業務 住宅性能評価業務 住宅性能保証業務
証券化支援業務(フラット35)

(株)広島建築住宅センター

〒730-0042 広島市中区国泰寺町1-8-4
TEL (082) 545-5665 FAX (082) 545-5668
E-mail info@hkjc.co.jp

(株)広島建築住宅センター 福山営業所

〒720-0034 福山市若松町8-22
TEL (084) 928-3979 FAX (084) 928-3974
E-mail hjs@peace.ocn.ne.jp

<http://www.j-eri.co.jp/>

evaluation, rating, inspiration

ERI

日本ERI株式会社

Menu

- ◆ **指定確認検査機関** ～基準法
○すべての建築物・工作物・建築設備についての確認済証・検査済証の交付
- ◆ **指定構造計算適合判定機関** ～基準法
○中国地方では広島県、鳥取県における構造計算適合判定の実施(面積区分有り)
- ◆ **登録住宅性能評価機関** ～品確法
○新築住宅・既存住宅の設計評価書・建設評価書の交付
- ◆ **指定性能評価機関** ～基準法
○超高層建築物(60m超)の構造評定
- ◆ **耐震改修計画の技術評定** ～耐震改修促進法
○耐震改修計画認定申請等のための耐震診断・改修計画の判定
- ◆ **住宅金融支援機構工事審査・適合証明**
○フラット35適合証明の設計・建設検査
- ◆ **住宅瑕疵保証検査**
○住宅保証機構・住宅あんしん保証・日本フランティ…のかし保証検査
- ◆ **建築物のソリューションサービス** (solution: 解決・解明)
○基準法適合判定・各種診断調査・第三者建築検査・デューデリジェンス等



日本ERI株式会社

広島支店 広島市中区上八丁堀4-1-9F 〒730-0012
TEL 082-211-5500 FAX 082-511-3113

◇本 社 東京都港区赤坂8-5-26-6F ◇日本全国29支店

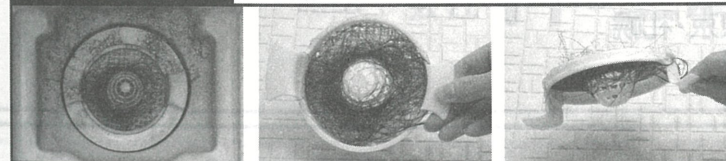
INAX
For Precious Life

画期的なおフロの 排水口、誕生！

従来の排水口はヌメリ汚れてドロドロに・・・

従来品

従来品は髪の毛が張りつきます



くるりんポイ排水口ならヌメリない！

くるりんポイ排水口 くるりんポイ排水口なら「ポイ」と捨てられます



※くるりんポイ排水口は、システムバス専用商品です。システムバス・プレシオとルキナに標準搭載されています。
※プレシオとルキナは(株)INAXとトステム(株)の共同開発商品です。

株式会社 INAX 中国支社 広島市安佐南区西原六丁目11-8 ☎ 082-850-3917 ホームページ <http://www.inax.co.jp/>

お湯をぬくたび勝手にキレイ

くるりんポイ
排水口

システムバスルーム「プレシオ」と「ルキナ」に新搭載！



総合建設業

ISO 9001 ISO 14001 認証取得
「新たな環境づくり=新たな価値づくり」



山陽工業株式会社

取締役社長 柴田 修身

広島市中区十日市町1丁目1-9 〒730-0805
TEL(082)232-6471 FAX(082)291-2233
<http://www.landingsanyo.co.jp/>

- 指定確認検査機関(大臣指定)
- 指定構造計算適合性判定機関(知事指定)
- 登録住宅性能評価機関(大臣登録)

株式会社 ジェイ・イー・サポート

本社 〒730-0041 広島市中区小町2-30 第二有楽ビル
TEL 082-546-1378 FAX 082-249-7190

支店 東京・札幌
営業所 呉

建設通信新聞

ひろげれば未来が読める 株式会社 日刊建設通信新聞社

取締役社長 西山 英勝

<http://www.kensetsunews.com> モバイルサイト <http://m-kensetsu.jp>

本社/東京都千代田区神田錦町3-13-7 ☎03(3259)8711(代)・FAX 03(3259)8730
中国支局/広島市中区上八丁堀8-23 林業ビル ☎082(227)5002・FAX 082(223)4526



住宅・店舗 設計 インテリア・コーディネート

アトリエ

走禽窟

二級建築士事務所

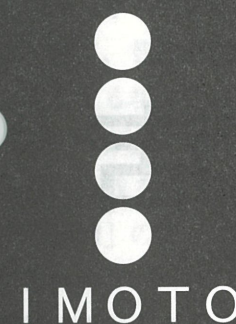
SOU・KIN・KUTSU

〒737-0113
TEL/FAX
MAIL

呉市広横路3丁目2-6 BABAビル2F
0823-75-2311
soukinkutsu @nifty.Com

75年の技術と信頼。

人と空間を見つめる4つのキーワード。
活力・技術・信頼・未来



井本建設株式会社

本社/〒737-0814 呉市山手1丁目1番33号 TEL.0823-23-2506 FAX.0823-25-1061
東広島支店/〒739-0142 東広島市八本松東3丁目5番5号 TEL.082-428-6407 FAX.082-428-5754

夢・真心・未来に向かって!!



建設業
設計・施工

株式
会社

神垣組

本社 〒737-0114 呉市広文化町1番32号
TEL(0823)71-2266 FAX(0823)74-6942

栄建構造設計

代表 津村 栄一

737-0056

広島県呉市朝日町4-1-1階

tel/0823(32)1216 fax/0823(32)1217

自然と笑顔の生活提案

総合建設業・一級建築士事務所

岡本建設株式会社

代表取締役 岡本 貫志 (一級建築士)

〒722-0062 尾道市向東町3567-1

TEL (0848) 44-2351

URL <http://www4.ocn.ne.jp/~ok21/>

FAX (0848) 44-2709

E-mail ok21@gamma.ocn.ne.jp

A STEP TO POSSIBILITY

SATO

株式会社 佐藤工務店

代表取締役 佐藤 充美

尾道市高須町3733-1 TEL.0848-46-0821

URL <http://www.bbbn.jp/~sato>

「地域と共に・・・」



Step by Step

総合建設業

三和鉄構建設株式会社

代表取締役社長 中島 秀晴

本社/尾道市高須町5267

TEL 0848-46-0914/FAX 0848-46-5485

www.sanwa-group.info



Motohiro Architecture Design Co., LTD.

有限会社 元廣建築設計事務所

一級建築士事務所登録・補償コンサルタント登録・測量業者登録

代表取締役 元廣 清志

本社/〒722-0037 尾道市西御所町6-15

TEL 0848-23-5300

FAX 0848-23-8499

URL: <http://www.urban.ne.jp/home/madesign> E-mail: madesign@urban.ne.jp

広島営業所/TEL 082-221-4444

三原営業所/TEL 0848-62-6260

備北営業所/TEL 0821-44-3245

福山営業所/TEL 084-948-2446

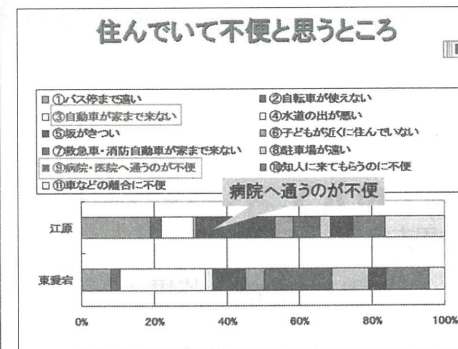
東広島営業所/TEL 082-435-2987

呉高専テクノセミナー開催について/模型創り体験 “ドリーム・ハウスを創ってみませんか”

支部だより
呉地区支部

呉高専テクノセミナー開催について

渡辺建築環境せつけい 渡辺 良一



建築士会CPD認定講座として、また呉地区支部・業務委員会の年数回の勉強会として、呉高専(呉市阿賀)・広島国際大学(呉市広)の先生(呉地区支部会員)のご協力を得て、普段研究されている、建築に関連した内容をお聞きする場を作らせていただいています。今回は、原・呉高専建築学教授(呉地区支部長)を講師として、「呉市内に残る井手跡」「まさ土から砂を採取する際の廃土の利用」のテーマで11月29日に開催されました。

呉市内の江戸時代に築かれた用水路跡で、二河川から灰が峰ふもとにある海拔40mと90mの用水路跡を、下井手(しもいで)・上井手(うわいで)と言い、現在は道路として利用されています。それぞれ水平な道であり、呉高専のスタッフが調査されていました。呉は坂の多い街なので、水平な道は特異です。改めて活用するアイデアを出せればという話が出ました。

廃土の利用は資源活用においてどうしても出てくるが、

活用に経費が多くかかるので誰も利用しない、ということに対しての研究、アイデアの話がありました。廃材を今ある形のものに活用する方法もあるが、経費を大きくかけない利用方法、研究および協賛される業者とのコラボをどうするか。今回のテーマは、現実的で身近なもので、参加者によるディスカッションも行われ、2時間が短く感じられるセミナーでした。

新年には、広島国際大学でもセミナーを予定しています。たくさんのご参加をお待ちしています。



支部だより
尾道支部

模型創り体験 “ドリーム・ハウスを創ってみませんか”

尾道支部青年部 吉岡 直美

どりの池や植栽が並びました。

創り始めると大人の私たちも熱中して、自分の創りたいイメージが膨らんできて、自分の意見を言い過ぎ、子どもに却下されるということもありました。子どもたちがこの体験を生かして、少しでも建築や物づくりに興味を持ってくれたら幸いです。

今年も引き続き活動を行う予定なので、昨年以上に盛り上げていきたいと思っています。スタッフとして参加された会員の皆様、お疲れ様でした。



尾道支部は今回初めて、子どもたちを対象とした、模型創りが体験できるイベントを行いました。

最初に創りたい家のイメージのヒアリングを行い、青年部会員がスチレンボードを切るなど、外形を作る手伝いをしながら、思い思いの家が出来上がりました。子どもたちの自由な発想で、A2サイズの敷地いっぱい色とり



賛助会員を紹介します

アオケン(株)

代表取締役 阿村 正昭

〒733-0036 広島市西区観音新町
3-1-3
☎ 082-292-3200**(株)INAX**

中国支社

支社長 寺前 英男

〒731-0113 広島市安佐南区西原
6-11-8
☎ 082-850-3917**江田島市役所**

都市整備課

市 長 曾根 薫

〒737-2392 江田島市能美町中町
4859-9
☎ 0823-40-2774**(株)中電工**

広島統括支社

支社長 道下 輝幸

〒734-0007 広島市南区皆実町
1-9-35
☎ 082-256-0719**(株)テクシード**

代表取締役 奥河内 博夫

〒730-0012 広島市東区戸坂新町
2-43-1
☎ 082-516-1070**TOTO(株)**

中国支社

支社長 古賀 修士郎

〒734-0014 広島市南区宇品西
4-1-36
☎ 082-505-1011**(株)共立ハウジング**

代表取締役 八幡 欣也

〒730-0051 広島市中区大手町
5-2-22
☎ 082-241-1100**(株)鴻治組**

代表取締役 檜山 典英

〒736-0082 広島市安芸区船越南
1-2-6
☎ 082-822-5211**坂町役場**

産業建設課

町 長 吉田 隆行

〒731-4393 安芸郡坂町平成ケ浜
1-1-1
☎ 082-820-1510**東リ(株)**

広島営業所

● 中国四国ブロック統括部長 森本 亨

〒733-0002 広島市西区楠木町
3-16-12
☎ 082-239-2858**(株)長崎塗装店**

代表取締役 長崎 和孝

〒733-0031 広島市中区紙屋町
1-1-13
☎ 082-247-9365**(株)長沼電業社**

代表取締役 長沼 毅

〒730-0036 広島市中区袋町6-14
☎ 082-248-2501**(株)サタケ**

代 表 佐竹 利子

〒739-8602 東広島市西条西本町
2-30
☎ 082-420-0001**三洋工業(株)**

広島営業所

所 長 井居 泰雄

〒732-0045 広島市東区曙4-4-1
☎ 082-261-9321**(有)ジブ建築設計工舎**

代表取締役 多森 治義

〒734-0014 広島市南区宇品西
3-5-12
☎ 082-254-4118**日本E R I (株)**

広島支店

支店長 小川 宏

〒730-0012 広島市中区上八丁堀4-1
グランドタワー9F
☎ 082-211-5500**日本住宅パネル工業(協)**

中四国支所

支所長 吉川 澄生

〒733-0841 広島市西区井口明神
1-14-43
☎ 082-270-3700**(株)広島建築住宅センター**

代表取締役 横田 昇三

〒730-0042 広島市中区国泰寺町
1-8-4
☎ 082-545-5665**下花建設(株)**

代表取締役社長 下花 光

〒731-4323 安芸郡坂町横浜中央
1-6-30
☎ 082-820-1111**章栄不動産(株)**

代表取締役 田中 常雄

〒730-0037 広島市中区中町9-9
章栄本社ビル
☎ 082-545-8888**(株)新広島設計**

代表取締役 錦織 亮雄

〒730-0042 広島市中区国泰寺町
1-8-30
☎ 082-243-2751**専門学校広島工学院大学校**

校 長 三宅 正昭

〒731-3166 広島市安佐南区大塚東
3-2-1
☎ 082-848-7780**富士建設(株)**

代表取締役 小林 武彦

〒720-8507 福山市神島町10-18
☎ 084-951-2820**(株)プレックハウス**

代表取締役 中川 博司

〒732-0068 広島市東区牛田本町
2-4-19
☎ 082-228-6682**(株)杉田三郎建築設計事務所**

代表取締役 杉田 輝征

〒730-0012 広島市中区上八丁堀7-5
☎ 082-228-2345**(株)砂原組**

代表取締役社長 中川 博司

〒730-0047 広島市中区平野町1-16
☎ 082-243-7421**生活産業研究所(株)**

代表取締役 石川 健

〒153-0043 東京都目黒区東山1-6-7
フォーラム中目黒4F
☎ 03-5723-6460**(株)ミヤジ**

代表取締役 宮地 康隆

〒722-0051 尾道市東尾道9-10
☎ 0848-20-2111**(有)元廣建築設計事務所**

代表取締役 元廣 清志

〒722-0037 尾道市西御所町6-15
☎ 0848-23-5300**(株)LAT**

代表取締役 山木 直行

〒733-0821 広島市西区庚午北2-1-4
☎ 082-273-2605**(株)セイブコーポレーション**

代表取締役 仲西 毅

〒730-0022 広島市中区銀山町3-1
ひろしまハイビル21 10階
☎ 082-504-6112**総合資格学院**

広島校

学院長 岸 隆司

〒730-0037 広島市中区中町7-41
広島三栄ビル
☎ 082-542-3811**中国電力(株)**

事業支援部門(業務建築当)

部 長 深田 武司

〒730-8701 広島市中区小町4-33
☎ 082-241-0211**(株)ラインビル**

代表取締役 高岡 幸都

〒728-0021 三次市十日市西1-15-7
☎ 0824-63-0112